

## ウォーレン郡公立学校 生徒ハンドブック

### はじめに

ウォーレン郡公立学校生徒ハンドブックは、生徒、保護者、教職員、学校コミュニティにウォーレン郡公立学区の生徒に関する諸規則を正しく理解していただくための努力の一環として、ウォーレン郡教育委員会により作成されました。

各校による意思決定評議会のためのケンタッキー州ガイドラインのもと、各校は教育委員会が策定した規則と規制の範囲内で独自の校則を追加できます。具体的な規則や規制については、お子さんの学校にお問い合わせください。

## ウォーレン郡公立学校 教育委員会の 権限

ケンタッキー州の州憲法は、適切な法律により、ケンタッキー州議会に対し、州全体に効率の良い公立学校制度を設ける権限を付与しています。ウォーレン郡教育委員会は、ケンタッキー州改正法 160.160 により権限を与えられた統治体として、その創設目標を達成するために必要なすべてのことを行います。

ウォーレン郡教育委員会は、ケンタッキー州改正法で規定されるすべての義務や責任、および州の教育委員会が策定する管理規則を遂行します。法規や規定が適用されない事項は、法の意図に従い、最も厳しい職業倫理基準に沿って処理されます。

## ケンタッキー州の教育目標

ケンタッキー州議会は学校と生徒に対して、以下の目標を設定しています。

- 学校は、すべての生徒に高水準の学業達成を期待すること。
- 学校は以下のような生徒の能力を開発すること。
  - a. 生涯を通じて直面する様々な状況において、基本的なコミュニケーションスキルと数学力を使う。
  - b. 数学、科学、芸術、人文科学、社会科学、および実践的な生活研究の原理を、生涯を通じて直面する様々な状況に応用する。
  - c. 自立した人間になる。
  - d. 家族、職場、地域社会の責任ある一員となる。
  - e. 学校や社会で直面する問題について考え、解決する。

- f. 経験と新たな知識をすでに学んだことと結びつけ、過去の学習経験を土台に様々な情報源から新たな知識を得る。
- 学校は、生徒の出席率を改善すること。
  - 学校は、生徒の中退数を減らし、在籍率を高めること。
  - 学校は学習の妨げとなる身体的、精神衛生的バリアを低減すること。
  - 学校は、就職、高等教育への進学、軍入隊を成し遂げた生徒の比率でその業績を評価されるものとする。

### ミッションステートメント

ウォーレン郡公立学校の使命は、自主的に思考し、生涯を通じて学び続ける、幸福で健康かつ生産的な民主社会の一員として個人を育成することです。

### 教育信条

ウォーレン郡公立学校の使命は、すべての教育プログラムやサービスの土台となるものです。

この使命には一連の信条と目標が含まれ、どちらもプログラムやサービスの計画および導入の指針となるものです。信条には、学区の理念が説明され、教育理念を実践する上での基準の役目を果たします。

### 公教育

私たちは以下を信奉します。

1. 公教育は、民主社会の基本原則と価値観を存続させる第一義的な手段であり、地域、州、国に影響を与える行政プロセスを生徒に理解させるものである。
2. 公教育には、ウォーレン郡市民の生活の質を高めるためのプログラムを導入する責任がある。
3. 公教育は、複雑で変化し続ける社会に必要とされるコミュニケーションスキルを育む機会を生徒に提供しなければならない。
4. 公教育はウォーレン郡のすべての市民の責任であり、これにより、生徒全員が経済的、社会的、政治的選択に必要な知識を得ることができるようにするものである。
5. 公教育に関する方針は、ウォーレン郡の市民の投票で選ばれた代表者が、有能な教育専門家および教育に関心を持つ市民、保護者とともに策定する。

6. 公教育は、人種、国籍、性別、政治的所属、心身障害に関わらず、ウォーレン郡の市民全員に公平な教育機会を提供しなければならない。
7. 公教育は、通学先の学校や居住している学区に関わらず、生徒全員に公平な教育機会と安全で快適な環境を提供しなければならない。
8. 公教育は、生徒が生涯の仕事を選べるようにし、また他州の生徒に劣らない能力を養えるよう十分に準備しなければならない。

### 地域社会

私たちは以下を信奉します。

1. 学校と地域社会のコミュニケーションは、地域の支援を生み出し、学校の教育成果に貢献する。
2. 学校と地域のリーダーは最も厳しい倫理基準に則って行動する手本とならなければならない。
3. ウォーレン郡の市民は公教育の発展と十分な経済的支援の両方を援助しなければならない。
4. 保護者は、学校の援助のもと、子供の教育、福祉、しつけに一義的な責任を持つ。
5. 保護者は、子供が学習、学校、教職員に対して望ましい態度を育成するよう援助する責任がある。

### 個人としての生徒

私たちは以下を信奉します。

1. 各生徒は、自己認識を高め、自分の精神的・身体的健康に関する十分な知識を得ることが必要である。
2. 各生徒は、独自の個性、能力、ニーズを持ち、教職員はこれを完全に考慮し、尊重しなければならない。
3. 各生徒は自立した人間にならなければならない。
4. 各生徒には学ぶ力が備わっており、個人のニーズ、興味、能力に応じた学習の機会が保証されるべきである。
5. 各生徒は、考慮、容認、理解を必要とし、それらを受ける資格がある。

6. 生徒は全員、自分の行動に責任を持ち、他の生徒または教職員に敬意を払い、学校施設を大切に、毎日遅刻せずに授業に出席する義務がある。

### 教育プログラム

私たちは以下を信奉します。

1. 教育プログラムは、小学校、中学校、高校、成人/地域教育という形で編成され、実施される。
2. キンダーガーデンは子供の関心を主体とし、学業自体よりも、各児童の社会的・知的な準備度を重視するものでなければならない。
3. 小学校はキンダーガーデンから6年生までとし、生徒数は最大750名程度とする。
4. 中学校には7年生と8年生が在籍し、生徒数は最大900名程度とする。
5. 高等学校は9～12年生が在籍し、生徒数は最大1,250名程度とする。
6. 生徒が家族、職場、地域の責任ある一員となり、地域社会に効果的に貢献できるようになるために、生徒間の対人関係の育成は学校活動に不可欠なものである。
7. 教育プログラムは、生徒の社会的・情緒的(情感)、学問的(認識)、身体的(精神運動性)ニーズに対応し、学校や社会で直面する問題について考え、解決する能力を育成しなければならない。
8. 生徒の学習過程は生徒の能力育成において、学習内容と同様に重要なものである。
9. 優秀児を対象にしたプログラムは、最も制限が少ない環境で提供され、生徒に最善なものでなければならない。
10. 生徒は、数学、科学、芸術、人文科学、社会科、実践的な生活研究の中核的概念と原理を、生涯を通じて直面する様々な状況に応用できる能力を培わなければならない。
11. 学校は、生徒が各科目から得られる体験と新たな知識を過去の学習経験に結びつけ、様々な技術を利用して新しい情報を得る能力を育成しなければならない。
12. 教育プログラムは、生徒の発育段階を考慮したものでなければならない。
13. すべてのプログラムやサービスは、必要に応じて定期的に評価、修正されなければならない。
14. 基本的技能は就学前から12年生まで指導し、生徒が生涯直面する様々な目的や状況に、基本的なコミュニケーションスキルや数学の能力を使えるようにする。

15. カウンセリングやガイダンスは、すべての学年の生徒のサポートとして提供される。
16. 生徒が自身の文化的・歴史的背景を正しく理解できるよう、人文科目において十分な基礎を提供できる教育課程を設定すべきである。

## 教育目標

ミッションに含まれている目標は生徒の教育成果に関する全体的な目標であって、行動指向的なものではありません。これらは学区がプログラムや活動を計画する際の指針となり、学区、学校、またはプログラムの全体的な成果を評価する際の目安となります。ウォーレン郡公立学校が主催するすべてのプログラムは、これらの目標に直接関連していなければなりません。

これらの目標の開発および採択には、生徒間の個人差、特に経験や能力が考慮されています。

このセクションには 8 つの全般的な目標が設定されており、それぞれに従属目標があります。

目標および従属目標が記載されている順序は、その重要性とは関係しません。

1. 基本的学力とさらに高度な学力を育成する。
  - a. 読み書きを学ぶ。
  - b. 基礎的およびより高等な演算操作を行う。
  - c. 読んだり聞いたりしたことから知識を得ることを学ぶ。
  - d. 書くこと、話すことで、考えを伝えることを学ぶ。
  - e. 情報源を利用する能力を養う。
2. 生徒の理性と知識活用力を伸ばす。
  - a. 問題解決力、論理を応用する力、様々な探求に用いるスキルなどを含め、理論的に思考する能力を養う。
  - b. 物事を評価し、知識を活用する力を養う。
  - c. 批判的かつ自主的に思考する力を養う。
  - d. 探究心を持ち、生涯学び続ける心を育てる。
  - e. 科学的な方法を使用できる力をつける。
  - f. 良い学習習慣を身に付けることの大切さを理解する。
3. キャリアを成功に導くスキルを身につける。
  - a. キャリア選択に関する知識と経済の現状を把握する力を身につける。
  - b. キャリア目標を達成するために計画を立てることを学ぶ。

- c. 職業の持つ社会的価値や仕事の尊厳、優れた仕事をする事への誇り、雇用者への敬意など、仕事に対する肯定的な態度を養う。
  - d. 生産的な人間となるための習慣や態度を養う。
  - e. 生涯教育に対する肯定的な態度を養う。
4. 良き市民となるための技能や態度を養う。
- a. アメリカの民主主義に対する忠誠心を育む。
  - b. アメリカの歴史と伝統を理解を深める。
  - c. 行政機関の基本的な機能を理解する。
  - d. 国際人として成功するために必要な知識をにつける。
  - e. アメリカ市民としての、また国際人としての義務と責任を理解する。
5. 優れた人間関係を築くための対人関係洞察力やスキルを伸ばす。
- a. 他の人や文化の価値を認め、それを理解する。
  - b. 他者を思いやり、目標に向かって進む力を伸ばす。
  - c. 人間性を思いやり、対人関係を理解する力を身につける。
  - d. 他者の視点から物事を眺め、他者と協力して仕事を進める能力を養う。
  - e. リーダーシップを培う。
6. 人格を高め、高い標準を設定し、自尊心を持つ。
- a. 道徳的、倫理的に健全な行動を身に付ける。
  - b. 自分自身や他者と向き合う際に必要な自信を高める。
  - c. 意思決定に必要なスキルを身につける。
  - d. 目標達成に向けて計画を立て、体系的に作業を進めることを学ぶ。
  - e. 自分の判断に責任を持ち、その結果を受け入れる態度を養う。
7. 情緒的および身体的に成長する。
- a. 自分の身体に関する知識を学び、健全で健康な習慣を身につける。
  - b. 依存性薬物の危険に関する知識を得る。
  - c. 自由時間の有効な過ごし方を学ぶ。
  - d. フィットネスやレクリエーションの技能を身につける。
  - e. 自己改善に必要な自己評価ができる力を養う。
  - f. 家族の大切さを理解する。
  - g. 怒り、ねたみ、恐れなどに対処する方法を学ぶ。
8. 創造性や表現力を高める。
- a. 創造的に物事に対処する力を養う。
  - b. 物事に柔軟に対処し、異なる視点から物を見ることを学ぶ。
  - c. 様々な芸術的表現方法を試み、それを楽しむことを学ぶ。

- d. 芸術的または職業的な技能、あるいは職業的な関心事を通じて、文化や社会生活に寄与することを学ぶ。

## 権利と義務

### 4000. 生徒の権利と義務

- 4000.01 生徒は学区のリソースの範囲内で、個々のニーズに応じた質の高い教育を受ける権利があります。

生徒は課題を完了し、教室での指導に参加して、他者の権利を尊重する義務があります。

### 4010. 教師の権利と義務

- 4010.01 教師は同僚、管理職者、生徒の保護者または後見人からその立場を尊重され、サポートを受ける権利を有します。

教師は各クラスの生徒の能力に合った教材を提示し、指導を行う義務があります。

### 4020. 保護者または後見人の権利と義務

- 4020.01 保護者または後見人は、子供に教育の尊重と教育を受ける責任感および必要性を理解させる義務があります。

(保護者または後見人の権利と義務に関する詳細のリストは、セントラルオフィスに保管されています。) 当学区は落ちこぼれ防止法(NCLB)の一環としてタイトル I プログラムに連邦政府の援助金を受けています。NCLB のもとでは、保護者には子供の教師の専門的資格に関する情報を要求する権利があります。

この情報をご希望の方は、お子さんの学校の校長にご連絡ください。その際、お子さんの氏名、教師の氏名、情報送付先の住所またはメールアドレスをお知らせください。

## 4020.2 タイトルI プログラムの保護者の関与に関する規則

本方針は、タイトルI プログラムに参加する生徒の保護者の同意の下に共同で策定され、配布されます。この規則の通知は、理解可能で一様な形式にて行い、さらにできる限りにおいて保護者が理解できる言語で提供しなければなりません。この規則は、地域社会でも入手できるようにし、保護者および学校のニーズの変化に対応するために定期的に更新する必要があります。

### 保護者の関与に対する期待

リソースやその他必要な情報が州および連邦当局より提供されていることの確認を条件に、参加している生徒の保護者にはタイトルI プログラムの計画、検討、および改善への組織的かつ継続的で時宜を得た自由参加の機会が提供されることが教育委員会の意図であり、これには保護者および学校のニーズの変化に基づく変更を提案する機会も含まれています。

タイトルI プログラム計画に対する保護者の不満足はすべて、その計画と共に教育部に提出しなければなりません。

## 4030. 校長および管理職者の権利と義務

4030.01 校長および管理職者は学校教育に関与するすべての人に、学校および教育委員会規則に従うよう要求する権利があります。

校長および管理職者は、学校教育に関与するすべての人の権利を尊重する肯定的な教育環境の育成と管理を援助する義務があります。

### 4030.02 タイトル1、パートA、NCLB セクション9304 の違反に関する苦情の早期解決を確実に行うための手順

NCLB により、プログラムの管理上、タイトル1、パートA の違反に関する苦情の受理と解決についての手順の文書化が義務付けられています。

学区による手順は以下の通りです。

苦情申し立ては、必ず書面にて、学区のタイトル1 コーディネーター宛てに行わなければなりません。苦情申し立て書には必ず、苦情申し立て人の氏名と連絡先、苦情の特質(タイトル1、パートA の管理上の具体的な違反行為)を記入しなければなりません。

タイトル1 コーディネーターは苦情記録を保管する義務があります。記録には、苦情の件名、苦情の受理日、追跡目的で苦情に割り当てられたログイン番号、苦情処理を担当する職員の氏名(該当する場合)、および苦情処理日を記載しなければなりません。

タイトル1 コーディネーターは、苦情の受理後、30 授業日以内に苦情申し立て人に返答する必要があります。

タイトル 1 コーディネーターは、学区事務所に苦情申し立て書、記録、処理内容のコピーを保管する義務があります。

苦情申し立て人は、タイトル 1

コーディネーターから返答を受け取った後、地元当局による決定に対して申し立てる場合は 30 日以内に行います。この申し立ては、(704 KAR 3:365) に準拠してケンタッキー州教育部に書面にて行う必要があります。

私立学校の生徒の参加における苦情申し立て手続きも上記と同じです。

## 管理規則

### 4040. 生徒の監督

4040.01 学区内の複数の学校の生徒は、授業中、学校の建物内や敷地内にいる間、共同カリキュラム、課外活動に参加している間、登下校中、または適切な形で放課になるまでは、それぞれの管理者および教師の監督下に置かれます。(KRS161.180、WCBE 規則 09.221)

### 4050. 人種関連事項と文化の多様性

4050.01 ウォーレン郡教育委員会は、いじめ、ハラスメント、差別を容認しません。人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、文化、婚姻状況、性別、障害などを理由に憎しみ、軽蔑、偏見を示す言葉、行為、またはシンボルを使用することによって生み出される攻撃的な環境は一切許しません。

ウォーレン郡教育委員会はその監督のもとで違反者が出た場合は、規則と行動を通じて迅速に処罰を決定します。

ウォーレン郡教育委員会は、多文化体験の価値を実証すべく、生徒・教職員・地域の構成員のあいだで人種間の協調を育むことができるよう全力を尽くしています。

ウォーレン郡教育委員会と教職員は、人種、文化、宗教の多様性に対する肯定的な態度を育むカリキュラムや課外活動、機会を、全生徒に提供します。

ウォーレン郡教育委員会は、生徒がその可能性を最大限に高めるために、すべてのプログラムや機会に公平にアクセスできるよう専心します。(WCBE 規則 03.162 および 09.42811)

#### 4060. ハラスメントや差別

校内および学校主催の校外活動において、人種、肌の色、国籍、年齢、宗教、遺伝情報、婚姻状態、政治的信念、性別、または障害を理由に、いじめ、ハラスメント、または差別を行うことは禁じられています。この禁止規則は、校内の教職員や生徒を訪れる人にも適用されません。(WCBE 規則 9.42811)

生徒が、他の生徒による否定的な行動に、繰り返しかつ長期的にさらされた場合、いじめにあっているか、または被害者と見なされます (Olweus 1986 & 1991)。攻撃的な行為や言葉による脅し、あざけり、からかい、中傷などを通じて意図的に相手を傷つけたり、不快感を与えたりする行為は、否定的な行為と見なされます。いじめは、力関係の不均衡による生徒間の喧嘩や、お互いに対する粗雑な態度とは異なります。いじめの被害者は自分自身を防御できず、加害者の前で無力な存在となります。

ハラスメントや差別は、脅迫または実際の暴力行為により脅すこと、何らかの形で攻撃的または脅迫的な環境を作り出すこと、一般に憎しみ、軽蔑、偏見を表す言葉、行為、またはシンボルを使用すること、あるいは個人を侮辱したり、汚名を着せたりする結果をもたらすことです。

性的ハラスメントは、以下のような場合に行われる、個人に望まれない不快感を与える性的な関心、性的な要求、性的な含みを持つ言葉や行動と定義されます。

- (1) こうした行為を受け入れることが生徒の成績評価の条件として明示または暗示されている場合。
- (2) こうした行為を受け入れるか、拒否するかによって、生徒に影響を与える学業成績が左右される場合。
- (3) こうした行為が、個人の業績や教育体験に不当な障害となるか、または脅迫的、攻撃的、不快な教育環境あるいは職場環境を作り出す場合。

この規則に違反の恐れがある行為(ハラスメントや差別)があった場合、生徒または生徒を代表する保護者は、学校の校長、副校長、カウンセラーに連絡してください。報告された苦情については、承認された手順や活動により調査が行われ、ハラスメントや差別が認められた場合は、措置が取られます。

#### 4070. 学校訪問者

ボランティアも含め、ウォーレン郡公立学校を訪れるすべての訪問者は正門から入り、ただちに管理事務所に進み、以後の指示を仰いでください。

管理事務所からさらに別の場所に移動する場合、訪問者には全員「ビジター」パスが発行されなければなりません。校内にいる間は、常に誰からでもよく見えるように「ビジター」パスを着用してください。

#### 4090. スクールバス乗車に関する規則

生徒は、正しい行動を取り、以下の規則や規制に従うことで、スクールバスに乗る特権を得ることができます。生徒がこの規則や規制に違反した場合は、通学する学校の校長に報告され、必要な措置が取られます。

1. 運転手はスクールバスと生徒を任されています。運転手の注意には、ただちに気持ちよく従います。
2. 乗車時刻に遅れないようにします。スクールバスは遅れた生徒を待たずに、定刻に出発します。バスが来る時刻より早めにバスストップで待つようにします。
3. 保護者や後見人が生徒の乗車するバスや降車地の変更を校長室宛に書面で通知しない限り、生徒は通常利用するバスに乗り、所定の降車地で下車しなければなりません。
4. スクールバスに損傷があった場合は、ただちに運転手に知らせます。スクールバスに損傷を与えた生徒は、バスを利用する特権を回復する前に、修理にかかった費用を全額負担しなければなりません。
5. バスから降りるときは、安全のため運転手から見えるよう、必ずバスの前を通って道を渡ります。(最低 10~12 フィート(3~3.6m)) 運転手の合図で道を渡るようにします。
6. スクールバスが完全に止まる前に、スクールバスに向かって走ったり、スクールバスの前を横切ったりしてはいけません。
7. バスを待っている間は、道路に出ないでください。車道や道路から離れ、きちんと列を作ってバスを待ちます。

8. バスに乗車したら、他の生徒の邪魔にならないよう、ただちに席に着きます。座席は三人がけとし、運転手の許可なく、席を変えることはできません。空いている座席がない場合は、乗車口に立たずに、バスの奥に行き行って立つようにします。
9. バスが動いている間はバスに乗り降りしたり、バス内を歩いたりしないでください。
10. 生徒は、運転手の注意をそらし、事故を引き起こす原因となる行為を行ってはなりません。そのような行為の例は以下の通りです。
  - a. 大声で話したり、笑ったり、不必要な混乱を招く。
  - b. 運転手に不必要に話しかける。
  - c. 車の窓やドアから身体の一部を出す。
11. 生徒は、スクールバスやその他の物品に損傷を与えたり、それらを過剰に消耗させたりする行動を取ってはなりません。
12. 以下の行動は常に禁止されています。
  - a. 横柄な振る舞い、反抗、下品またはひわいな言葉使い、けんかや突き、小突きなどの攻撃的な行為。
  - b. スクールバス内での喫煙。
  - c. スクールバス内での飲食。
  - d. ナイフなどの武器や鋭利な物の所有。
  - e. スクールバスへの動物の持ち込み。
  - f. スクールバス内で、または外に向かって物を投げること。
  - g. 機械設備、付属品、運転手の制御機器にいたずらすること。
  - i. 通路をふさぐこと。
  - j. 座席で必要以上の場所を取ること。(生徒がバスに持ち込む所持品はすべて生徒の膝の上ののせ、他の座席や通路に置くことはできません。)
  - k. バスに泥や土を引き込むこと。
  - l. バス内を散らかすこと。
  - m. 運転手の許可なくバスの窓を開閉すること。
13. スクールバスには指定された生徒しか乗車できません。

14. これらの規則や規制に繰り返し違反した生徒は通学している学校の校長に報告され、処罰が科されます。しかるべき警告が与えられた後、校長は一定期間、その生徒のスクールバスに乗車する特権を保留します。スクールバスに乗車する特権が2回保留された場合は、生徒が自分の行動を改善することを証明し、交通部長が許可を与えた場合のみ、特権が回復されます。科される処罰について、校長から保護者に書面で通知されますが、処罰の適用は通知が送付されるまで保留される必要はありません。
15. 運転手、生徒、保護者からの苦情で、上記の規則に該当しないものはすべて、校長または交通部長に速やかに報告してください。
16. ウォーレン郡教育委員会は、スクールバス内の生徒の行動問題に対して情状酌量なしで対処しています。運転手は問題解決のため、以下を行います。
  - \* 座席を指定する。
  - \* 処罰報告書を使用する。
  - \* 運転手は厳格かつ公平な態度で生徒に接する。スクールバスは教室の延長であり、生徒にとって安全な場所でなければならず、他の生徒からの脅かしや嫌がらせを恐れる場所であってはならない。スクールバス規則の違反については、以下の基準が適用される。
    - \* 1回目の違反 - 校長またはその指定者の裁量に任せられる。
    - \* 2回目の違反 - 校長またはその指定者の裁量に任せられる。
    - \* 3回目の違反 - 3日間にわたりスクールバスの乗車を禁止。
    - \* 4回目の違反 - 5日間にわたりスクールバスの乗車を禁止。(スクールバス乗車の特権が回復される前に、生徒と保護者は校長および交通部長との面談が必要となります)。
    - \* 5回目の違反 - 10日間にわたりスクールバスの乗車を禁止。
    - \* 6回目の違反 - 学期または学年度の残り期間、スクールバスの乗車を禁止。

#### **4100. スクールバス/校外学習**

##### 4100.01

教育委員会は、指定校まで徒歩で通学できる範囲外の地域に居住している生徒に、登下校の交通手段を提供します。

スクールバスに乗る生徒の権利は、正しい行動を取り、規則や規制に従うことが条件となります(「スクールバス乗車ハンドブック」を参照)。(WCBE規則 09.226、06.34)

4100.02 自宅近く以外の降車地でバスを降りる要請は、校長またはその指定者による確認が必要です。その要請の確認が取れない場合、生徒は自宅近くの降車地または通常利用している降車地以外の場所でバスを降りることはできません。

4100.03 教育委員会は、教育目的であらかじめ計画されている活動を除き、学校敷地外での行事やピクニックを承認しません。

学校主催の校外学習では、スポーツ行事や学術コンテストなどへのバス乗車も含み、管理職者が常に生徒に随行します。

保護者やボランティアは、校外学習に随行する前に、ボランティア研修および犯罪歴のチェックを受ける必要があります。教育的な校外学習の計画や実施は、教育委員会規則および「校外学習および遠足」に従って行われます(WCBE 規則 09.36)。

#### **4110. 自動車の使用**

4110.01 教育委員会と校長が決定した条件のもと、高等学校の生徒には自動車での登校が許可されることがあります。この場合、自動車は校内の所定の場所に駐車し、校長またはその指定者が許可しない限り、下校時間まで動かすことはできません。学校敷地内での運転は特権であり、いつでも無効にされる場合があります。中学校の生徒には自動車での登校は許可されません。(WCBE 09.223)

#### **4120. 生徒の下校**

4120.01 生徒の下校許可：

生徒の下校が許可される場合は、常に保護者または後見人の書面による指示に従って行われます。この指示書は、生徒が学年度の登録または入学手続きを行う際に保護者または後見人が提出するもので、生徒の通常の下校手段と、保護者または後見人以外に生徒を迎えに来ることができる人を列挙するものとします。承認された下校手段から逸脱する場合は、生徒が学校を出る前に、校長またはその指定者の許可が必要です。

下校手段に変更がある場合に必要となる学校への書面による通知は、保護者または後見人の責任となります。学校に書面による通知がない場合、生徒は通常利用する経路のスクールバスに乗車して帰宅するか、保護者または後見人が学校に迎えに来る必要があります。

適切な承認なく学校敷地を離れた生徒はすべて、処罰の対象となります。

4120.02 下校手順：  
保護者または後見人あるいはその指名を受けた者が、終業前に生徒を迎えに来た場合は、校長室に立ち寄り、生徒の下校記録簿に署名しなければなりません。

各校では、定時に遅れて登校した生徒や定時より早く下校する生徒の記録簿を管理し、生徒を迎えに来た人に対しては教職員が身元証明書（雇用証明書、運転免許証、写真付き身分証明書など）の提示を要請します。

保護者または後見人の庇護や監督下でない生徒（訳注：18歳以上）は、登下校簿に自分で署名することができます。

4120.03 例外：  
生徒は、生徒を監督する法的権限を持つ人、例えば、礼状を持つ警察官などに引き渡されることがあります。この場合、できるだけ早急に生徒の保護者に通知しなければなりません。

さらに教育委員会は、生徒の病気その他の適切な理由がある場合は、校長の判断により、生徒を緊急下校させることができます（WCBE 規則 09.1231）。

4120.04 校長が承認する活動に参加する場合を除き、下校時間が来たら、生徒は全員ただちに学校を出なければなりません。

#### **4130. 物品の損傷**

4130.01 学校の建物、備品、無料交付の教科書、その他の公共財産にいかなる形でも損傷を与えた生徒は、校長または教師による処罰の対象となります。この場合、生徒とその保護者または後見人には、全額を賠償する責任があります。

教職員に攻撃や暴力を加えたり、校内または校外で教職員の私有物を盗んだり、意図的に損傷したりした場合は、停学または退学の対象となります（KRS 158.150、WCBE 規則 09.421）。

#### **4140. 校内入室**

4140.01 校長、教職員、校長が指定した認定済みの学区職員の直接の監督のもと以外、生徒が校内に入ることは禁止されています。

#### 4150. 生徒への投薬

4150.1 保護者または後見人による記入済みの承認書が提出された時点で、生徒は自宅から持参した医薬品を服用することができます。

法律で義務付けられている研修を受けた学校職員により生徒に投与される医薬品は、手順で明記されたガイドラインに従って校内に保管されます。医薬品はすべて、教育長が導入した手順に従って投与され、記録されなければなりません。

自己投与:

教育長が導入した手順に基づき、生徒は、差し迫った医療上の必要性により継続使用または常時携帯するよう医師が処方または指示した医薬品を携帯することが許可されます。

法律に従って保護者または後見人および医師が毎年記入済みの用紙を提出することを条件に、ぜんそくの治療を受けている生徒は、医薬品を自己投与する許可が与えられています。

#### 4160. 生徒の服装と外観 (WCBE 規則09.427)

ウォーレン郡学区では、生徒の学業のみならず社会的な指導も必要であると考えています。生徒の服装規定は、社会教育の重要な部分を占めます。

生徒は、常に場に応じた服装を心がけ、極端な服装、化粧、髪型は避けなければなりません。生徒は、自分自身、家族、学校、地域の評価を高めるべく、整った身だしなみを保つ責任があると感じるべきです。

教育委員会では、生徒の態度はその服装と密接に関連するという考えに基づき、以下の服装基準を定めています。また、適切な服装と身だしなみを心がける生徒集団が学校の学習環境を向上させると考えています。

4160.01 小学校(就学前～6年生):

控えめで気を散らさないような服装を心がけてください。

校長の判断により、授業の中断や学業の妨げとなったり、他の児童の健康を脅かす恐れがあったりするような、個性の強すぎる服装、化粧、スタイル、または不衛生な身だしなみは禁止されています。

帽子やヘッドドレスは、宗教や健康、安全上の理由で必要とされている場合を除き、校内では着用禁止です。

サングラスの着用は、医療上の理由がない限り校内では禁止されています。この場合、医師からの事前の通知が必要となります。

頭髪は清潔できちんと整髪されていなければなりません。気を散らすような極端なスタイルは禁止されています。

丈の短いズボンは品位を保っている限り着用できますが、極端に短いものや、きつめのものは避けてください。

不快なメッセージ、下品さ、アルコール飲料や違法な薬物を奨励するようなパッチ、刺繍、衣類は禁止されています。

適切な靴を常に着用します(例、体育用の運動靴など)。

4160.02 実施：  
服装規定は校長が各校で実施します。規定に即さない服装、または規定から多少逸脱する服装を生徒が着用した場合、校長がこの規則を解釈し、最終的な判断を下します。

4160.03 免除：  
事前に告示されている日には、校長またはその指定者によって、生徒は服装規定の適用を免除されることがあります。

4160.04 違反：  
この服装規定は、身だしなみがよく、清潔で、教育活動に支障を与えない生徒集団を形成し、管理するために規定されています。この規定に違反した場合、校長またはその代理者が違反している生徒にその旨を伝え、違反を是正するよう指導します。その上で生徒がこの規則に従わなかった場合は、処罰が科せられます。

4160.05 中学校と高等学校(7~12年生)：  
控えめで気を散らさないような服装を心がけてください。  
校長の判断により、授業の中断や学業の妨げとなったり、他の生徒の健康を脅かす恐れがあったりするような、個性が強すぎる服装、化粧、スタイル、または不衛生な身だしなみは禁止されています。

帽子やヘッドレスは、宗教や健康、安全上の理由で必要とされている場合を除き、校内では着用禁止です。

サングラスの着用は、医療上の理由がない限り校内では禁止されています。この場合、医師からの事前の通知が必要となります。

頭髪は清潔できちんと整髪されていなければなりません。気を散らすような極端なスタイルは禁止されています。

丈の短いズボンは品位を保っている限り着用できますが、極端に短いものや、きつめのものは避けてください。

スカートやドレスは品位を保つ長さであることが必要です。極端に短いものや、きつめのものは避けてください。

ヌードのように見えるスタイル、シースルー、またはわき腹や腹部を露出するクリップスタイルの服装は禁止されています。

下品さ、アルコール飲料や違法な薬物を奨励するようなパッチ、刺繍、衣類は禁止されています。

上半身には常に適切な衣類の着用が必要です。長いコートは、学校の建物に入ったときに脱がなければなりません。

4160.06 実施：  
服装規定は校長が各校で実施します。規定に即さない服装、または規定から多少逸脱する服装を生徒が着用した場合、校長がこの規則を解釈し、最終的な判断を下します。

4160.07 免除：  
事前に発表されている特別な日には、校長またはその指定者によって、生徒は服装規定の適用を免除されることがあります。

4160.08 違反：  
この服装規定は、身だしなみがよく、清潔で、教育活動に支障を与えない生徒集団を形成し、管理するために規定されています。この規定に違反した場合、校長またはその代理者が違反している生徒にその旨を伝え、違反を是正するよう指導します。その上で生徒がこの規則に従わなかった場合は、処罰が科せられます。

## 4170. 武器

4170.01 ウォーレン郡公立学校は、武器の持ち込みに対するゼロトレランス規則を採用しています。この規則に違反した場合、停学や退学を含む処罰の対象となります。ケンタッキー州の学校敷地内での武器の違法所持は重犯罪であり、最高懲役 5 年と罰金 10,000 ドルが科せられます。生徒は、学校の建物、敷地、車両内、また学校主催の活動や行事において、銃器その他の危険な凶器、危険な器具、破壊的な装置や仕掛け爆弾、これらの模造品(例、おもちゃのハンドガン)を携帯、持ち込み、所有することはできません。「銃器」とは、「火薬によって物体を発射させる器具で、ピストル、ハンドガン、リボルバー、ライフル、ショットガンを含みますが、これに限定されない」と定義されます。「その他の危険な凶器」とは、「使用される、使用しようとする

る、使用すると威嚇する、または使用される可能性がある各状況において、殺傷をもたらす威力のある武器で、ナイフ、エアガン、スプリングガン、スリングショット、こん棒、警棒、ナイトスティック、ブラックジャック、ブラスナックルなどを含みますが、これに限定されない」と定義されます。「危険な器具、破壊的な装置や仕掛け爆弾」とは、「使用される、使用しようとする、使用すると威嚇する、使用される可能性がある各状況において、殺傷をもたらす威力のある武器(花火などを含む)」と定義されます。(WCBE 規則 09.424)

生徒が校内で銃器を所有したり、学区内の学校、またはキャンパスや学校敷地内に銃器やその他の危険な凶器、破壊的な装置、仕掛け爆弾を持ち込んだりした場合は、規則 09.435 により最低 12 か月の停学処分となります。ただし、教育委員会によりケースバイケースで退学処分が変更されることがあります。IDEA およびセクション 504 の要件を満たす障害を持つ生徒に対するものを含め、1 年間の退学処分要件のケースバイケースによる修正は書面で行う必要があり、教育長またはその指定者の推薦に基づくことがあります。

校内で銃器を所有したり、学校に銃器やその他の危険な凶器、破壊的な装置、仕掛け爆弾を持ち込んだりした生徒はすべて、刑事司法または少年非行制度の当局に照会されます。

生徒はこの規則の制約事項に違反した場合、処罰の対象となりますが、米国学区域での銃禁止法が義務付けている 12 か月の退学処分は、学校敷地内でロックされた車両内に合法的に保管された銃器には適用されません。

4170.02 銃器、その他の危険な凶器、危険な器具、破壊的な装置、仕掛け爆弾、またはその模造品(例、おもちゃのハンドガン)を携帯、持ち込み、使用、所有した生徒はただちに停学処分とされ、退学が勧められます。ポケットナイフの所有は許可されず、レベル I の違反と見なされ、ナイフは没収されます。一般的に使用されるポケットナイフを携帯していた場合、ナイフは没収され、停学または退学を含む処罰が科せられます。

爆発物その他の危険物の製造に関する情報を校内で所有または他者に渡した生徒は、ただちに停学処分とされ、退学が勧められます。

#### **4180. レーザーポインター**

4180.01 誤用による負傷の危険を避けるため、学校敷地内での生徒によるレーザーポインターの使用は禁止されています。

#### **4190. 呼出装置や電子メディアへのアクセス**

- 4190.01 授業中またはウォーレン郡のスクールバスで移動中、学校敷地内にいる間、あるいは学校主催または学校関連の活動に参加している間、生徒は個人用の通信機器を使用したり、起動したりすることはできません。ケースバイケースで例外を校長が判断します。個人用通信機器とは、可聴信号の発信、振動、メッセージの表示といった方法で所有者の注意を喚起し、所有者にメッセージを伝える機器と定義されます。携帯電話は呼出装置と見なされます。
- 4190.02 この規則に違反する形で呼出装置を所有している生徒を見つけた者は、適切な学校管理者にその違反を報告する必要があり、管理者はその装置を没収します。各校レベルでその他の処罰が科されることもあります。(KRS 158.165)
- 4190.03 学区の技術リソースを使用した電子メディアへのアクセスが生徒に与えられることもあります。これらのリソースを利用する場合はすべて、ウォーレン郡教育委員会規則 08.2323 および当学区のウェブサイトから入手可能な、当学区の承認される使用方法とガイドラインに準拠する必要があります。

#### **4200. 秘密組織やギャング組織への参加**

- 4200.01 学区教育委員会では、ウォーレン郡公立学校内でのあらゆる秘密組織や男子クラブ、女子クラブの結成、運営を禁止しています。(WCBE 09.32)
- 4200.02 ギャング活動やその参加：  
生徒の服装、衣類、活動、行為、行動、身なりの整え方は、以下を示したり、反映したり、以下に参加したりするものであってはなりません。
1. そのような行動、衣服、活動、行為、またはその他の特徴がギャング関連のものであったり、教育環境や教育活動、教育目標に支障を与えたりすると学校当局が考える。
  2. 自分自身、他の生徒、教職員に身体的危険をもたらす。
  3. 不当な圧力、行動、威嚇、あからさまな態度、脅し、暴力で、生徒や教職員その他の人の福祉が妨げられる環境を作り出す。
  4. 学校の物品または個人の物品や身体に、文書、マーク、図柄、ペインティング、デザイン、刺繍などでギャングに所属していることを暗示する。(WCBE規則 09.427)
  5. 校内にギャング活動の疑いがあり、校長にその証拠がある場合、その情報は警察に通知されます。警察へのこの通知によって、特定の生徒や保護者に警察から連絡が行く場合には、校長またはその指定者はまずその保護者にこの情報や懸念を伝えるための最大限の努力をしなければなりません。

#### 4210. 生徒組織

4210.01 学校敷地内で運営される生徒組織や学校の名前のもとで運営される生徒組織は、生徒全員に開かれたものでなければなりません。生徒組織への入会や役員の選定は、民主的な方法で行われることが必要です。この規則の条項は、校長によって承認される規約事項により、学識、カリキュラム関係の特別な関心、その他の資格審査で入会が制限される優等生協会、運動部、その他の組織を禁止するものではありません。(WCBE 09.32; 09.321; 09.323)

#### 4220. アルコールおよびその他の薬物に関する規則(煙草も含む)(WCBE 09.423)

ウォーレン郡公立学校では、違法薬物、アルコール、煙草の所有や使用は健康に有害であると確信しています。

4220.01 薬物、麻薬、規制薬物、アルコール、精神安定剤は禁止されています。  
生徒は、アルコール飲料、麻薬、薬物、規制薬物、精神安定剤(吸入剤など)、市販薬または医薬品、麻薬道具を購入、所有、使用、またはその影響下にあたり、学校敷地、スクールバス、学校主催の活動や集会活動や行事、登下校中、学校主催の活動や集会への行き帰りに、他の生徒に対し、アルコール飲料、麻薬、薬物、規制薬物、精神安定剤(吸入剤など)、市販薬または医薬品、麻薬道具を購入する手伝いをしたり、販売したり、譲渡したりすることは禁じられています。

4220.02 薬物、麻薬および規制薬物：  
規制薬物とは、ケンタッキー州改正法の 218A 章またはケンタッキー州改正法の他の条項のもとで発布された規則および連邦法や規則のもとで発布された規制に、薬物、麻薬、規制薬物として記載されている物質およびその先駆物質を意味します。

4220.03 薬物、麻薬、規制薬物の偽造、模倣および模擬品：  
生徒は、偽造、類似、または模擬の麻薬、薬物、または規制薬物を購入、所有、譲渡したり、学校敷地、スクールバス、学校主催の活動や集会活動や行事、登下校中、学校主催の活動や集会への行き帰りに、他の生徒に対し、購入、使用、所有、売却、または譲渡された物質が麻薬、薬物、規制薬物であると思わせて、これらの購入を手伝ったり、販売したり、譲渡することはできません。

4220.04 許可される医薬品：  
処方薬および市販薬はすべて、承認された教職員によって投薬されるために事務室に預けなければなりません。これらの医薬品はオリジナルの容器に入っていないなければなりません。医師や歯科医によって生徒に処方された薬物、麻薬、規制薬物は処方に従って投与され、この規則に違反するものとは見なされません。教育長が導入した手順に基づき、生徒は、差し迫った医療上の必要性により継続使用または常時携帯するよう医師が処方または指示した医薬品を携帯することが許可されます。

4220.05

処罰:

アルコール飲料、麻薬、薬物、規制薬物、市販薬、偽造、類似、または模擬の薬物や規制薬物の販売、購入、所持、譲渡、あるいはアルコール飲料、薬物、麻薬、規制薬物、麻薬道具、偽造、類似、または模擬の薬物や規制薬物の入手、販売、譲渡を援助した生徒はただちに校長の裁量による処罰を受けます。譲渡に関する処罰を検討する際には、知識、意図、その他の不注意な行動が考慮されます。

この規則への違反は、停学や退学などを含む処分の対象となります。

4220.06

煙草と喫煙: (WCBE 09.4232)

生徒が、煙草、葉巻、パイプ煙草その他の煙草製品を、学校の建物内またはその付近、校庭、スクールバス、学校敷地で所有したり、使用したりする(喫煙、噛み煙草を噛んだりディップしたりする)ことは禁じられています。さらに、生徒は校内(スクールバス、建物、学校敷地内など)でマッチやライターを所有することが禁じられています。

上記の規則に違反した場合、学校管理者により、以下の処罰が科せられます。

初回の違反: 学校の代替学習センター、CAP プログラム、ABC ルームなどに1日参加する。

二回目の違反: 学校の代替学習センターに3日参加する。

それ以上の違反を繰り返した場合には、ただちに停学または退学処分が科されることがあります。

4220.07

予防プログラム:

教育長は、全生徒を対象に以下に対する意識を高める薬物/アルコール追放プログラムを設立します。

1. 学校での薬物/アルコール濫用の危険性。
2. 学校から薬物やアルコールを追放するための学区の規則と関連手順。
3. アルコール、薬物、その他の規制薬物の使用の禁止を含む学区に設けられている行動基準の遵守。
4. 生徒が利用できる、薬物/アルコールカウンセリングプログラムやリハビリテーション/生徒援助プログラムに関する情報。
5. 薬物/アルコールに関する規則に違反した場合に、生徒に科される処罰。

#### 4230. 停学または退学処分 (WCBE 09.434; 09.435)

4230.01 正当な手続き:

生徒の停学または退学処分にあたっては、以下の手続きが厳守されます。

- (1) 生徒には口頭または書面により、停学処分を科すことと、その理由が通知されます。
- (2) 生徒にはその処分が決定された理由と証拠が提示されます。
- (3) 生徒はその処分に対して、自分の言い分を説明する機会が与えられます。

停学処分が実施される前に、この適正手続きが取られなければなりません。ただし、人身や物品を保護するため、または教育指導に支障が生じることを避けるために、ただちに生徒を停学させることが必要である場合は、この限りではありません。この場合、上記の適正手順は、生徒の停学処分後、3 授業日以内に取りられなければなりません。

4230.02 教育長、校長、または副校長は、KRS 158.150 または教育委員会に採用されている規則に則り、一回の事件につき最高 10 日まで生徒を停学処分に科すことができます。障害を持つ生徒の場合は事件ごとに通常より短期間の停学処分を科し、年間の停学日数が 10 日を超えないものとします。ただし、同様の問題が繰り返される場合は別です。停学処分はすべて書面で保護者に通知され、それには停学処分の理由、停学日数、停学期間中に保護者と生徒が教職員と面談を持つ旨が記載されます。この通知のコピーは生徒の累積ファイルに保管され、もう一通のコピーが生徒サービス部長に送られます。校長は、停学処分に関連して、「生徒と家族の向上プログラム」への参加を勧めることもできます。

4230.03 教育委員会は KRS 158.150 または教育委員会が採用している規則に則り、不正行為のあった生徒を退学させることができます。退学処分は、生徒と保護者または後見人が教育委員会と審理を行う機会があるまでは実施されません。教育委員会の決定は最終決定です。

4230.04 教育長に退学を促された生徒は、学校から最高 10 日間停学処分に科されます。教育委員会が授業日 10 日以内にその件を検討して決定を下さない場合、生徒は学校に戻り、教育委員会の審理中、学校謹慎プログラムに配置されます。

4230.05 以下は停学や退学処分の十分な理由となる不正行為の例ですが、これに限定されません。

- (1) 不道德な行為
- (2) 文書と口頭の両方を含む下品な言葉
- (3) 権限を持つ者への意図的な不服従や反抗
- (4) 不適切な服装や身なり
- (5) 執拗な不服従や無秩序な行動

- (6) 常習的な遅刻
- (7) 無断欠席
- (8) 不衛生
- (9) 署名偽造
- (10) 無断で学校を離れる
- (11) 意図的に真実を曲げる
- (12) 言葉や行為で学校や教職員を攻撃する
- (13) 言葉や行為で他の生徒を攻撃する
- (14) 生徒や教職員を暴力で脅かす
- (15) アルコール飲料、薬物、麻薬、規制薬物、偽造、類似、または模擬の薬物または規制薬物の所有や使用
- (16) 学校敷地内での煙草の所有または使用
- (17) 校内、校外、または学校主催の活動で、意図的または理由なく学校の物品や教職員の私有物を破損した場合
- (18) 銃器、その他の危険な凶器、危険な器具、破壊的な装置、仕掛け爆弾、またはその模造品(例、おもちゃのハンドガン)の所有
- (19) 学校当局が採用しているまたは設置している規則への違反
- (20) 停学や退学処分の対象となるその他の行動

4230.06 停学処分になった生徒には、停学期間中に受けられなかった授業の補習、課題の後日提出、試験の追試は許可されません。障害のある生徒は年間停学日数 11 日目から IEP サービスを継続します。

停学中の生徒は、停学期間中はウォーレン郡公立学校のいかなる活動にも参加することはできません。

4230.07 障害を持つ生徒の停学については、連邦法と州法で規定されている手続きが取られます。

4230.08 代替校への配置が勧められた生徒については、その学校にとりあえず配置された後、ウォーレン郡教育委員会と面談します。教育委員会は、代替校への配置と退学のうち、どちらが適当か判断します。

#### 4240. 犯罪行為 (WCBE 09.438)

4240.01 生徒は、生徒として学校に対する説明責任があると同時に、市民として法を遵守する責任があります。ケンタッキー州と連邦政府の刑法は、校内のすべての人に適用されます。違法行為は、これらの法と地元の教育委員会の規則に従って処罰されます。犯罪行為が発生した場合、犯罪を起こした生徒はただちに法執行機関に引き渡されます。

4240.02 犯罪行為となる不正行為が発生した場合、その行為者である個人や生徒は、ただちに学校や周囲環境から退去させられ、教育委員会の審理を待ちます。

学校職員への暴力：

教師や学校職員に対し、暴力や言葉による攻撃を加えた生徒や、嫌がらせを行った生徒は、適切な処罰または法的措置の対象となります。

学校職員に暴力を振るったり、学校敷地や学校活動で武器を携帯したりした経歴がある生徒や、他者の健康や安全に脅威を与える病状のある生徒が学区の教職員の管轄下に置かれたり、直接接したりする場合は、校長からその教職員に対し、事前に書面で生徒の経歴について通知されます。この通知には、その生徒の行動の特質が記入されます。(WCBE 規則 09.4252)

4240.04 殺人、暴行、武器、アルコール、または薬物に関連する違法行為で有罪判決を受けている生徒、あるいは殺人、暴行、武器、アルコール、または薬物に関する州法違反で退学になっている生徒を受け入れるにあたっては、事前に生徒の保護者、後見人、または生徒の身元に責任を持つ機関の担当者は、その生徒がケンタッキー州内あるいは他州の学校から上記の違法行為で退学になった旨を記入した宣誓書あるいは確認書を学校に提出しなければなりません。

殺人、暴行、武器、アルコール、または薬物に関する州法違反や学校規則への違反で退学になった生徒が生徒記録の転送を希望する場合、これらの記録にはこれらの処罰と退学手続きの最終供述書が含まれていなければなりません。

殺人、暴行、武器、アルコール、または薬物に関する州法や学校規則違反で退学になった生徒が、新しい学校に生徒記録の送付を希望する場合、退学手続きが完了するまでは生徒記録は送付されません。記録には、これらの処罰と退学手続きの最終供述書が含まれています。

学校管理職者、教師、その他の職員が以下に気づいた場合には、電話その他の手段を用いて、最寄りの警察署またはケンタッキー州保安官事務所、ケンタッキー州警察にただちに連絡することが義務付けられています。

以下の行為が起きたことを知っている場合、またはそれを疑う十分な理由がある場合：

- (a) 凶器の携帯、所有、または使用、あるいは規制薬物の使用、所有、または販売に関連するケンタッキー州法への軽犯罪違反または違法行為
- (b) ケンタッキー州法への重犯罪違反
- (c) 学校敷地または学校敷地から 1000 フィート以内の場所、スクールバス、または学校主催の活動や集会で発生した違法行為

善意で報告を行った個人が、その結果生じる、または報告により派生した訴訟手続きの結果生じる民事責任や刑事責任を追求されることはありません。(WCBE 規則 09.435)

#### **4260. 検査と押収 (WCBE 09.436)**

##### 4260.01 定期点検:

学区が所有または提供するロッカー、机、ネットワークシステム、技術リソースおよびアカウントなどの学校資産は、生徒と学校の両方に属します。学校当局は、これらの学校資産を定期的に検査する権利を有します。検査中、貸出期限が切れた学校図書などの学校資産が収集されます。これらの場所に置かれた品目や情報について、生徒はプライバシーを主張することはできません。違法行為や校則違反があると考えられる妥当な理由がある場合は、特定の机やロッカー、または技術リソースおよびアカウントが検査されることがあります。

##### 4260.02 妥当な理由に基づく疑い:

学校または学区の規則の違反行為や違法行為が検査の結果明らかになるという確固たる信念がない限り、生徒の上着、ポケット、私有物(例、ハンドバック、バックパック)を検査することはできません。生徒の身体検査は、校長、副校長またはその指定者による権限を受けている者によってのみ行われます。

##### 4260.03 認定教職員:

生徒の身体検査は、生徒の行動に直接責任を持つ認定教職員または校長、副校長、あるいは通学する学校の教職員で校長や副校長が指定した者のみが行います。

##### 4260.04 立会人:

生徒の身体検査を行う場合は、立会人が同席します。

##### 4260.05 身体検査:

生徒の身体検査は、他の生徒がいない場所で行います。

##### 4260.06 ストリップサーチ:

生徒のストリップサーチは許可されません。

- 4260.07 違法品目：  
違法な品目（例、武器、薬物など）または学校当局が生徒や他の個人の安全やセキュリティを脅かす恐れがあると判断する所有物は、学校職員によって押収されます。
- 4260.08 その他の妨害的な品目：  
学校職員は、教育過程を妨害または中断するために使用される可能性がある品目を、生徒から一時的に取り上げることがあります。これらの品目は、学校職員または校長室を通じて、生徒に返却される場合があります。
- 4260.09 押収された品目の処理：  
生徒から押収された品目は、適切な関係当局に提出されるか、所有者に返却されます。
- 4260.10 警察犬による捜査：  
教育長は、中学および高等学校レベルで警察犬による捜査を予定することがあります。
- 4260.11 防犯カメラの使用：  
生徒指導や交通指導を行う場所に、生徒の行動を録画するために防犯カメラを設置することがあります。防犯カメラで録画された不正行為は、生徒の規律管理に使用される場合があります。
- 4260.12 非協調的な態度：  
学校職員に非協調的な態度を取った生徒は、さらなる処罰の対象となります。

#### **4270. 障害を持つ生徒 (WCBE 08.131 および 09.13)**

- 4270.01 障害を持つ生徒は、米国個別障害者教育法 (IDEA) またはリハビリテーション法セクション 504 に基づいて特定され、サービスが提供されます。IDEA のもとで有資格と見なされた場合は、入学およびリリース委員会 (ARC) が個別教育プラン (IEP) を通じて教育サービスを決定します。セクション 504 のみで特定された場合は、504 委員会が 504 プランを通じて生徒の人権保護を確保します。処罰が必要とされる場合、ウォーレン郡の学校では、生徒の障害が原因の行為またはそれに関連した行為で生徒が差別されることがないようにします。IEP または 504 プランに属する生徒の保護者は、チームミーティングごとに手続きに関する保護手段通知を受け取ります。これには、処罰方法に関する具体的な手順や生徒の権利が記載されています。要請に応じて、通学する学校から追加のコピーを入手することもできます。

4270.02 特定された生徒および特殊教育クラスへの配置検討のために評価が推薦された生徒の行動は、入学とリリース委員会（ARC） および 504 委員会の会議時に検討されます。行動療法、治療、および結果は、試みられる行動改善、また個別教育プランまたは 504 プランの一部となります。これらの介入治療によっても生徒の不正行為が改善されず、効果がないと判断された場合、問題を適切な委員会に提示し、より適切な行動に改善する可能性がある他の教育プログラムへの変更を考慮します。

4270.03 生徒の行動は、生徒の障害と関連するか、またはそれが原因となっていることもあるため、特殊教育には適切な行動の指導も含まれます。適切な委員会により、障害を持たない他の生徒に実施される行動療法は効果がないと判断された場合は、委員会はその生徒の個別教育プログラム（IEP）または 504 プラン内で適切な行動療法を指定します。

4270.04 IEP または 504 プランに参加している生徒が、危険な状況や妨害的な状況を作り出した場合、停学処分になることがあります。短期停学の適正手続きは、すべての生徒に適用されるものと同様であり、停学と退学処分のセクションに記載されています。停学処分が処罰として用いられ、退学処分は考慮されていない場合、義務ではありませんが、適切な委員会を召集することができます。違反行為が退学処分に相当しない場合、生徒は合計で年間 10 日までの停学処分を受けることがあります。

- (1) 生徒が校内で、または学校行事中に武器を所有していた場合、あるいは校内で、または学校行事中に違法薬物を意図的に所有、使用、販売、または販売の勧誘を行った場合、学校は一方的に（保護者の同意を得ずに）生徒を一時的に ARC によって決定される代替教育環境に配置できます。その代替教育環境では、IEP が実施されます。
- (2) 生徒の現在のクラス所属が続く限り、生徒自身や他者に重大な危害が及ぶと考えられる深刻な不正行為については、学区は司法制度を通じて一時的にその生徒を校内から退去させることを選択できます。この措置は、保護者が生徒の教育環境の変更を拒否した場合にのみ実施されます。

4270.05 メディケイド制度への請求意図に関する年次通告：  
ウォーレン郡公立学区は、承認された学校ベースの医療サービスプロバイダです。医療カードを持つ生徒が、個別教育プラン（IEP）を通じて言語療法、作業療法、理学療法、評価その他の医療サービスを受ける場合、保護者は学区が生徒の医療カードに直接費用を請求することを書面で許可できます。ただし、子供の学校から送られる保護者のメディケイド同意書にこれを拒否する旨を記入すれば、保護者はいつでも学校のメディケイド請求へのアクセスを拒否できます。

学区がメディケイドプログラムに参加するか否かによって、保護者と生徒の権利、IEP を通じて受けるサービスに影響が出ることはありません。また、学区が適切なサービスに対してメディケイドに費用を請求することで、メディケイドプログラムにおけるお子さんの給付内容が削減されることはないことを保護者が理解することは重要なことです。生徒が医療カードと民間の健康保険の両方を持っている場合は、学区は提供したサービスをメディケイドに請求しません。

#### 4280. 生徒の不正行為に対するゼロトレランスと対応体制

ウォーレン郡公立学区では、人種差別や武器、薬物、アルコール、暴力に対してゼロトレランスの処罰方法を採用しています。ゼロトレランスとは、限度の設定とその実施の両方を意味します。違反した生徒は自動的に事務所に送られ、決められた処罰を受けます。暴力的な威嚇はすべて深刻に受けとめられます。学校職員による調査に続き、ただちに停学処分が取られることがあります。さらに、状況によっては警察に通知される場合もあります。

以下に生徒の不正行為とそれに対する処罰の例を挙げますが、すべての例を漏れなく挙げることは不可能です。したがって、生徒の不正行為やそれに対する処罰は、ここに記載されたものに限られません。学区の薬物やアルコールに関する規則への違反に対する処罰は、本書に記載されています。また、学区の武器に関する規則への違反に対する処罰は WCBE 09.4、09.42、09.424、09.426、09.42811、09.43、09.431、09.432、09.4341、09.438 に記載されています。

4280.01 生徒の不正行為に対する対応体制：  
生徒の不正行為に対する対応は、障害を持つ生徒に対しては IEP または 504 プランに従って、適切な委員会とすべての適正手順を用いて変更されることがあります。

4280.02 レベル I: 授業の秩序や学校運営の妨げとなる軽度の不正行為。これらの不正行為は個々の教職員によって対処されますが、場合によっては他の教職員の介入が必要となることがあります。

(1) 例:

- a. 授業の妨害
- b. 授業への遅刻
- c. 軽度の不敬行為
- d. 課題を完成させなかったり指示に従わなかったりするが、反抗的な態度は見られない
- e. 他の生徒の課題を写した
- f. 賭け事
- g. ハラスメントや差別
- h. 服装規定への違反

- (2) 処罰手続き:
- a. 生徒を監督する教職員または不正行為を目撃した教職員がただちに介入。
  - b. 不正行為が繰り返される場合は、保護者と教師の面談、カウンセラーや学校管理者との面談が必要とされる。
  - c. 教職員によって、生徒の不正行為と処罰が記録され、管理される。
- (3) 対処方法の例:
- a. 言葉による叱責
  - b. 行動の是正
  - c. カウンセリング
  - d. 特権の取り上げ
  - e. 厳しい監督下での学習
  - f. 生徒間での調停
  - g. 社会的技能の教育
  - h. 減点
  - i. 拘留
  - j. 保護者との面談
  - k. 生徒援助プログラム
  - l. 学校謹慎

4280.03

レベル II: 学校の学習環境を妨害する頻度または重度の不正行為。これらの違反はレベル I の不正行為の継続の結果起こる場合があり、レベル I での処罰では状況を改善できなかったため、学校管理者レベルでの介入が必要とされます。また、このレベルの不正行為には、生徒や教職員の健康や安全を直接脅かすことはなくても、教育成果に深刻な影響を与えるため、学校管理者レベルでの是正が必要とされるものも含まれます。

- (1) 例:
- a. レベル I の不正行為の継続
  - b. 学校への遅刻
  - c. 無断欠席
  - d. 署名偽造の欠席届けを提出
  - e. 授業の妨害行為
  - f. 授業の無断欠席
  - g. 物品の破損またはファイルの削除、ファイルやコンピュータから作業を削除
  - h. 学校環境を妨害する品目の展示や配布
  - i. 携帯電話を含む呼出装置の所有
  - j. ハラスメントや差別
- (2) 処罰手続き:

- a. 生徒は学校管理者のもとに送られ、適切な処罰を受ける。
- b. 学校管理者は生徒や教師と面談し、最も効果的な処罰を講じる。
- c. 教師には学校管理者の決定が通知される。
- d. 学校管理者は生徒の不正行為について、保護者と話し合う。
- e. 学校管理者は、不正行為と処罰を適切かつ正確に記録し、それを管理する。

(3) 対処方法の例:

- a. 教師／時間割の変更
- b. 日程の変更
- c. 行動契約とプラン
- d. 謹慎
- e. 生徒間での調停
- f. 校外機関への紹介
- g. 家庭内代替学習センター／代替行動クラス
- h. カウンセリング
- i. 生徒援助プログラム
- j. 拘留
- k. 停学

4280.04

レベル III: 他の生徒や教職員、物品に直接影響を与えるが、校内の人の健康や安全に深刻な危害を与えることはない不正行為。これらの行為はレベル I とレベル II の継続の結果起こる場合があり、中には犯罪行為と見なされるものもありますが、通常は校内の処罰制度で対処されます。ただし、学校が実施する処罰は、生徒に最善な是正措置を実施するために利用できる学校のリソースに左右されます。

(1) 例:

- a. 喧嘩
- b. 公共物破壊(重度による)
- c. 窃盗
- d. 他者の威嚇
- e. 性的ハラスメント
- f. レベル I と II の不正行為を同じ形で継続
- g. ハラスメントや差別

- (2) 処罰手続き:
- a. 学校管理者は違反行為について調査し、その結果について職員と話し合うことによって、処罰を開始する。
  - b. 学校管理者は生徒と面談し、また生徒の不正行為およびその結果としての処罰について生徒の保護者と話し合う。
  - c. 学校管理者は、不正行為と処罰を適切かつ正確に記録し、それを管理する。
- (3) 対処方法の例:
- a. その生徒を授業から一時的に退去させる
  - b. 代替校に入れる
  - c. 停学
  - d. カウンセリング
  - e. 家庭内代替学習センター／代替行動クラス
  - f. 退学

4280.05 レベル IV: 他者や物品への暴力、または学校の秩序ある運営や校内の人への直接的な脅威となる行動。これらの行動は非常に深刻なものであり、学校管理者はただちにその生徒を学校から退去させるとともに、司法機関や教育委員会の介入や措置を必要とします。

- (1) 例:
- a. レベル I、II、III の不正行為を同じ形で継続
  - b. 恐喝
  - c. 学校、スクールバス、学校職員、学校行事などへの爆弾脅迫。これらの行為は重犯罪です。
  - d. 銃器、その他の凶器、危険な器具、破壊的な装置、仕掛け爆弾、またはその模造品(例、おもちゃの銃)の所有や使用
  - e. 暴行／殴打
  - f. 公共物破壊(重度により左右)
  - g. 窃盗/盗難品の所有、売却
  - h. 放火
  - i. アルコール飲料、麻薬、薬物、規制薬物、精神安定剤(吸入剤など)または麻薬道具、偽造、類似、または模擬の薬物や規制薬物、精神安定剤の所有、使用、販売、受取、譲渡、または販売、受取、譲渡の手伝い
  - j. 非常時以外に火災報知器を鳴らしたり、改ざんしたりする
  - k. 学校職員を罵倒する
  - l. ハラスメントや差別

- (2) 処罰手続き:
  - a. 学校管理者は不正行為を確認する。
  - b. 事件に関係した教職員と話し合う。
  - c. 生徒および／または保護者、その他の関係者と面談する。
  
- (3) 対処方法の例:
  - a. 停学
  - b. 代替校
  - c. 退学

#### **4290. 身体拘束器具の使用**

##### 4290.01 身体拘束器具の使用:

学校教職員は、自分自身、生徒、または他者をケガから守るため、生徒が所持している武器等の危険物を取り上げるため、あるいは器物を重大な損害から保護するために、身体拘束器具の使用が妥当かつ必要であれば、職務の範囲内で身体拘束器具を使用することができます。

##### 身体拘束および隔離の手順:

ウォーレン郡の公立学校では、学校環境における身体拘束および隔離に関して、行動障害を持つ生徒に関する評議会の推薦事項に従います。

- \* 生徒はすべて、安全で最も制限が少ない環境において必要な教育と精神衛生上のサポートおよびプログラムを受けます。
  
- \* 行動療法は予防と肯定的な行動サポートの創出を重視します。
  
- \* 学校は、生徒に積極的なサポートを効果的に提供するために十分な職員数を維持し、適切な訓練を受けた職員を配置しなくてはなりません。
  
- \* ウォーレン郡の公立学校では、生徒またはその他の個人の身体的危険が差し迫っている場合のみ、身体拘束や隔離の手順を使用すべきだと確信しています。
  
- \* 強制的に従わせるための罰、もしくは適切な教育的サポートの代わりとして身体拘束や隔離は使用されません。

#### 4300. 天候による日程変更

天候による日程変更:

ウォーレン郡公立学校は、天候によって休校になることがあります。この場合、ラジオ局やテレビ局には午前 6 時まで通知され、午前 6 時から 8 時までの間にできるだけ頻繁に通報するよう、要請されます。また、学校の始業時間が 1~2 時間遅れることもあります。ただし、学校教職員は監督のため通常通り勤務するため、生徒を平常の時刻に学校に連れていくこともできます。

悪天候によって下校時間が通常より早くなることもあります。生徒をスクールバスで下校させるためには、2 時間以上前に運転手に連絡することが必要となります。下校時間が繰り上げになる場合、セントラルオフィスは教育長を通じて、メディアに通知する前にすべての学校に連絡します。

プリスクールの生徒の保護者は、悪天候の際は登下校時間の変更や休校などに備えて、十分注意を払ってください。

#### 4310. ファミリーリソースセンターとユースサービスセンター

##### 4310.01 ファミリーリソースセンター:

ウォーレン郡公立学校の多くには、家族を援助するためのセンターが用意されています。各センターで利用できるリソースや活動は、学校や地域のニーズによって異なります。詳細はお子さんの学校にお問い合わせください。

4310.02 ウォーレン郡のファミリーリソースセンターやユースサービスセンターのサービス利用において不当な扱いを受けた個人には審理を受ける権利があるとともに、「家族・子供サービス部」に申し立てることができます。

#### 4320 一般公開

4320.01 生徒の保護者または後見人が書面で通知しない限り、学校とウォーレン郡教育委員会および関連機関は、一般市民が関心を持つ内容のプログラムの作成やプロダクションの準備を行うことができます。ケーブル TV や通常のテレビによる放映には、生徒の氏名、関心事項、写真、口頭や文章での意見が含まれます。

## 入学許可基準

### 4330. 年齢

3 歳児および 4 歳児用のプログラム:

特殊教育サービスを受ける資格がある児童生徒に対しては、特殊児童生徒に対するサービスとして策定された方針および手順に沿ったサービスが提供されます。

危険度の高い就学前児童:

該当年度の 10 月 1 日以前に満 4 歳になり、その家族が昼食の無償提供を受ける資格を満たしている児童。(WCBE 09.121, 09.122)

障害を持つ就学前児童:

3 歳児または 4 歳児で、発育に遅れがあるか、または障害がある児童。

#### 4330.03 初年度用課程:

入学を希望する学年度の 10 月 1 日以前に満 5 歳になる児童は、キンダーガーデン初年度課程に入学することができます。(WCBE 09.121; 09.122)

#### 4330.04 2 年目用課程:

入学を希望する学年度の 10 月 1 日以前に満 6 歳になり、認定キンダーガーデン課程を修了している児童は、小学校 1 年生課程に入学することができます。(WCBE 09.121; 09.122)

#### 4330.05 6 年生課程:

5 年生の教育課程を修了した児童は、6 年生課程に進級できます。6 年生進級前に MMR (はしか・風疹・おたふくかぜ)の予防接種と健康診断を受けることなどその他のすべての基準を満たしていることが条件となります。

#### 4330.06 停学に代わるプログラム:

ウォーレン郡の「停学に代わるプログラム(ASP)」では、停学処分を受けた生徒に対し、通常の学校環境では学習の妨害となる行為を抑制するために、安全かつ意欲をもたせる環境で、学習サポートと生徒指導を提供します。このプログラムは、7~12 名の生徒を対象としています。ASP への出席日数は、1 日から 10 日に及びます。ASP で与えられた課題を完了した場合は、生徒の通学する学校から単位がすべて与えられます。ウォーレン郡公立学校では、停学処分の代わりにこのプログラムに参加することを許可しています。

#### 4340. 健康条件とサービス

- 4340.01 出生証明書／ソーシャルセキュリティ番号：  
学年を問わず、学区内の学校に初めて入学/転入する際は、児童の出生証明書原本またはその認証謄本、もしくは出生証明書謄本を作成できないことを説明した宣誓供述書付きで、生徒の氏名と年齢に関するその他の信頼できる証明書を提出し、学校が生徒の生年月日と出生地を正確に記録できるようにしなければなりません。(WCBE 09.21)
- また入学/転入時に生徒のソーシャルセキュリティ番号も要求されますが、これは必須ではありません。
- 4340.02 予防接種：  
KRS158.035 の条項に従い、必要な予防接種がすべて完了していることを示すケンタッキー州予防接種認定書を提出していない場合は、学区内のいずれの学校にも通学できません。(WCBE09.211; 09.212)
- 4340.03 健康診断：  
学区内の学校に初めて入学/転入する際は、生徒はかかりつけの医師による健康証明書または前の学校からの健康記録を提出し、州の健康条例で定められている期間内に適切な健康診断を受けていることを証明しなければなりません。(WCBE 09.211)
- 4340.04 視力検査：  
ケンタッキー州内の学校に初めて入学/転入する際は、生徒は検眼医または眼科医による視力検査表を提出しなければなりません。詳しい情報のお問い合わせは、ケンタッキー検眼協会(502)875-3516 に電話するか、ウェブサイト(<http://www.kyeyes.org/>)をご覧ください。2000～2001 学年度にすでに入学している生徒についてはこの条件は免除されます。
- 4340.05 伝染病と寄生虫：  
伝染病や寄生虫に感染している児童生徒の登校は、禁止されています。これらの疾患や寄生虫に感染している生徒は、保護者または後見人との手配が完了次第、ただちに帰宅させられます。かかりつけの医師または郡の保健所から疾患や寄生虫感染から完治したという証明書が提出されるまで、生徒は登校できません。寄生虫については、学校看護師または学校の指定者によって、生徒が再び登校する前に生徒が感染していないことを確認できます。(WCBE 09.213; KRS)

#### **4350. 学区居住者の定義**

- 4350.01 ウォーレン郡公立学校には、学区内に法的に居住している生徒、または州法で認められている生徒のみが入学できます。その他の生徒は全員、学校の事務手続き上、非居住者と区分されます。(WCBE 09.12)
- 4350.02 ウォーレン郡公立学校に通学する生徒は、保護者または法的後見人と同居していることが必要です。後見人の責任は裁判所を通じて確立され、後見人書類の写しが校長または生徒サービス部長によって保管されていなければなりません。

#### **4360. 学費と返金**

- 4360.01 学費：  
ポーリンググリーン公立学区に在住の非居住生徒は、ウォーレン郡教育委員会が決定した料金体系に従って、学費の納入が必要です。教育委員会職員の子弟は、学費を支払わずに通学する許可を得られることがあります。(WCBE 09.12; 03.127, 03.226)
- 4360.02 返金：  
非居住者が支払った学費の返金は、ウォーレン郡学校に通学した日数で日割り計算されません。(WCBE 09.124)

#### **4370. ウォーレン郡公立学校に通学できる非居住者**

- 4370.01 非居住者である生徒は、教育委員会の承認を受け、学費を支払うか、教育委員会の規則で規定されている条件を満たせば、ウォーレン郡公立学校に入学できます。(WCBE 09.124)
- 4370.02 非居住者である生徒は、ケンタッキー州の SEEK 法により定義されている生徒の平均出席率をウォーレン郡教育委員会に通知することに同意した学区からのみ受け入れられます。(WCBE 09.125)
- 4370.03 非居住者の入学によって、法的居住者に不利益がもたらされたり、法的居住者が排除されたりすることがあってはなりません。

#### **4380. 出席義務**

- 4380.01 6 歳から 16 歳の児童は全員、ケンタッキー州の学校法 KRS159.010 に従って学校に通学しなければなりません。ただし、KRS159.030 で免除されている場合は例外とします。(WCBE 09.122)

4380.02 16 歳から 18 歳の生徒が高等学校卒業前に退学を希望する場合、生徒は校長または校長が指定する学校教職員とその問題について話し合い、保護者、後見人、あるいは親権または後見責任を持つ州内に居住している個人が署名した退学許可書の提出が必要です。(WCBE 09.122)

生徒は退学 60 日前に、学校に書面で通知しなければなりません。退学の希望は生徒が 16 歳になるまで提出できません。したがって、生徒は満 16 歳に達した後、少なくとも 60 日は学校に在籍することになります。

#### **4390. 出席に関する規則 (WCBE 09.123)**

4390.01 生徒には、自分が通学する学校に毎日時間通りに出席することが要求されます。

無断欠席の定義:

正当な理由なく 3 日以上学校を欠席した生徒、または正当な理由なく 3 日以上学校に遅刻した生徒は、無断欠席をしたとみなされます。正当な届出なく、60 分未満学校に出席しなかった場合は、遅刻と見なされます。2 回以上無断欠席が報告された生徒は(正当な届出なく、欠席または遅刻が 6 回以上)、常習的無断欠席者と見なされる場合があります。

ここに記載されている規則に加え、各学校は独自の遅刻/欠席規則を設けることができます。特定の学校の遅刻/欠席規則については、その学校の校長にお問い合わせください。

#### **就学前～8 年生**

4390.03 正当と認められる欠席および遅刻:  
欠席時の学業を補う課題を遂行し、校長もしくはその指名者によって認定された以下の理由による欠席は、正当な欠席と認められます。

1. 肉親の死亡や重病
2. 生徒自身の病気
3. 令状、召喚状、出頭命令などによる裁判所への生徒の出廷
4. 校長またはその指定者によって承認された学校関連活動への出席
5. 校長やその指定者が正当と判断するその他の理由

不当な欠席や遅刻:

上記以外の欠席や遅刻は不当なものと思われ、課題の後日提出や追試などは認められません。

必要な届出：

生徒が学校に戻る際、保護者または医師が署名した届出を校長室に提出しなければなりません。届出のある欠席が 6 回続いた場合、以後の欠席後に生徒が学校に戻る場合は、保護者が付き添って登校するか、病欠の場合はかかりつけの医師からの診断書が必要となります。校長またはその指定者は、欠席が認められるかどうかを判断します。

## 9～12 年生

4390.06

正当と認められる欠席または無断欠席：

欠席時の学業を補う課題を遂行し、校長もしくはその指名者によって認定された以下の理由による欠席は、正当な欠席と認められます。

1. 肉親の死亡や重病
2. 生徒自身の病気
3. 令状、召喚状、出頭命令などによる裁判所への生徒の出廷
4. 保護者や後見人に付き添われた運転免許試験で、校長やその指定者が承認しているもの
5. 宗教的な休日および慣習
6. 校長またはその指定者によって承認された学校関連活動への出席
7. 書類などで確認された兵役休暇
8. 軍務に召集された保護者または後見人の出発の 1 日前
9. 軍務から帰還した保護者または後見人の帰還から 1 日後
10. 軍務で海外に居留している保護者、事実上の後見人、もしくは法的監護人が休息および療養のための休暇が与えられた場合、最高 10 日間の面会
11. 校長やその指定者が正当と判断するその他の理由、教育的強化の機会として見なされる校外学習

4390.07

不当な欠席や遅刻：

上記以外の欠席や遅刻は不当なもの見なされ、課題の後日提出や追試などは認められません。

4390.08

必要な届出：

生徒が学校に戻る際、保護者または医師が署名した届出を校長室に提出しなければなりません。届出のある欠席が 6 回続いた場合、校長またはその指定者は、以後の欠席後、生徒が学校に戻る場合に保護者が付き添って登校するか、病欠の場合はかかりつけの医師からの診断書が必要となります。校長またはその指定者は、欠席が認められるかどうかを判断します。

- 4390.14 承認ガイドラインを満たす生徒は「延長学校サービス(Extended School Services)」を受ける資格があり、そのサービスを受けることを選んだ生徒は、その学校に毎日時間通りに出席することが要求されます。教育委員会が通常の授業日に対して承認した出席規則は、放課後の補習授業やサマースクールなどの延長学校サービスを受ける生徒にも適用されます。
- 4390.15 正課併行の課外活動  
 予定されている共同カリキュラム活動を校長または指定者が事前に承認している場合、その活動に参加する生徒の出席数は、通常の授業日に出席した場合と同様に数えられます。共同カリキュラム活動や校外学習は、通常のカリキュラムに密接に関連し、教室での授業の欠席を最小限に抑えるように予定されるものに限って承認されます。
- 4390.16 地域および州のトーナメント:  
 学校主催の学校対抗運動チームの選手として、ケンタッキー州教育委員会または KHSAA 主催で、定期的に登校日に開催される地域または州のトーナメントで競うためにこれに参加する生徒は、毎学年度、生徒一人当たり最高 2 日間、試合日に学校に出席していたと見なされ、記録されます。生徒は、試合日にできなかった課題を完了しなければなりません。

### 入学手続き、進級、転校、成績表、クラス分け

#### 4400. 入学手続き

- 4400.01 生徒の入学手続きにあたり、各生徒の記録には、氏名、入学許可日、生年月日、住所、保護者または後見人の氏名と住所、保護者または後見人の職業、これまでに通学していた学校を離れた日付とその理由が記入されます。保護者または後見人には、生年月日、予防接種、健康状況を示す公式書類の提示が義務付けられます。

#### 4410. 進級

- 4410.01 小学校における進級は、教師の推薦と、プライマリープログラムと 4～6 年生に関する規定事項に従って、校長が決定します。(WCBE 規則 08.22)
- 4410.02 中学校 (7～8 年生)における進級は、校長の指揮のもとで行われます。(WCBE 規則 08.22)
- 4410.03 高等学校レベル(9～12年生)の進級は、校長の指揮のもとで行われます。進級は履修した単位数により決定されます。(WCBE 規則 08.22)

#### 4420. 卒業／進級の条件と関連規則 (WCBE 規則 08.113)

- 4420.01 卒業は、ウォーレン郡教育委員会がウォーレン郡高等学校向けに採択した現行年度の「学習プログラムと卒業条件」に規定されている必要条件の修了を意味します。
- 4420.02 卒業の条件がすべて満たされない限り、生徒は卒業式に参加できません。

- 4420.03 生徒は全員、「学習プログラムと卒業条件」の説明書に規定されている単位履修条件に従います。さらに、生徒は州の教育部の規定にも従わなければなりません。
- 4420.04 1日6時制限で運営されている学校では、生徒は最低22単位を取得し、学区の高等学校卒業に規定されている州と地域の条件をすべて満たすことが必要です。
- 学区の代替学校では、ウォーレン郡公立学校に生徒を送り、必要な単位数を取得させます。
- 6時制限で運営されている学校の卒業最低必要単位数は、数学4単位、英語4単位、科学3単位、社会科3単位、保健／体育1単位、芸術1単位、選択科目6単位です。
- 高等教育要件に関する地域、州、および／または議会の規定に基づき、各校の評議会は生徒が選択できる卒業学位に必要な主要科目および関連科目を設定します。
- 生徒は、スカラスティックディプロマ(大学進学向け卒業証書)、アカデミックディプロマ(標準卒業証書)のいずれかを選択することができます。コースの選択は、生徒の進学希望やキャリア目標に基づいて決定されます。コースは学習プログラムから選択されます。生徒の進路希望やキャリア目標に基づいて、適切なコースを選ぶための進路指導が行われます。これまでの成績、教師の推薦、生徒自身の選択、保護者の意見を考慮して、コースが選択されます。
- 4420.05 21歳未満で、現在高等学校に在籍している生徒には、その生徒が損失した単位を埋め合わせるにより、8学期、4年間で高等学校課程が修了できることを条件に、3単位の代替単位の取得が許可されます。代替単位は、承認されている代替学校、バーチャルプログラム、または大学プログラムを通じて取得されたカーネギー単位に相当するものとします。代替単位は、校長の承認と推薦により取得できます。卒業時期を早めるために代替単位を通常の単位に置き換えることはできません。
- 4420.06 高等学校の最終学年に、正式に認定された高等学校からウォーレン郡公立高等学校に転入する生徒は、ウォーレン郡公立高等学校の卒業要件が満たされる場合にのみ卒業予定生として転入が認められます。ただし、ウォーレン郡の高等学校に転入後、必要な単位をすべて取得しなければなりません。

非認定校からの転入：

1. コースの単位を取得するためには、上級レベルの科目では最初のクォーター(1学期の前半)に70%以上の成績を取ることが必要です。
2. 適切に確認された場合、成績や単位は卒業要件の修了または成績証明書の発行に用いられます。
3. 非認定校からの成績や単位は、G.P.A(成績平均点)の算出やクラスでのランク、優等学位、賞受賞などの対象にはなりません。

4420.07 生徒が9年生に進級した年度に採用された現行の「学習プログラムと卒業条件」の説明書の規定をすべて満たした生徒全員に卒業証書が授与されます。

4420.08 高等学校の生徒がフルタイムの生徒と見なされるためには、最低4単位以上の履修が必要です。履修単位が4単位に満たない場合は、校長の許可が必要となります。

4420.09 卒業生は全員、校長から特別に免除されない限り、卒業式に出席しなければなりません。

4420.10 校長は教育長の許可のもと、その生徒の参加が卒業生全体や学校の不名誉になるとと思われる場合、その生徒の卒業式への参加を禁止できます。

4420.11 6時制限で運営されている高等学校の学年配置の必要単位数はソフォモア(Sophomore – 10年生)5単位、ジュニア(Junior – 11年生)11単位、シニア(Senior – 12年生)16単位です。

4420.12 高等学校の単位の定義：

- a. 規定の学年度内に、1日1時限、週5日指導されるクラスを満足な成績で修了した場合、1単位が取得できます。部分的にクラスを修了しても、部分的な単位は得られません。
- b. 規定の学年度内に1日1時限、週2.5日、または通常学年度(2学期制)の1学期間に週5日指導されるクラスを満足な成績で修了した場合、1/2単位が取得できます。
- c. 下記の例外を除き、9年生の資格を取るまでは、いかなる教科であってもカーネギー単位は取得できません。例外となるのは、中学校の学年で取得した代数I、生物学、幾何学、外国語の単位です。最終的な成績評価は、生徒の高等学校のG.P.A.(成績平均点)の算出に用いられます。

卒業規定への例外措置:

卒業規定への例外措置を希望する場合には、学校長と中等教育スーパーバイザーに書面で申請してください。中等教育スーパーバイザーが、教育長および教育委員会に推薦書を提出します。現行の卒業規定や手順への例外措置を要請するために、その理由となる障害や特別な障害を説明することは、生徒およびその家族の責任です。

例外措置の認否は、ウォーレン郡教育委員会の決定に続き、教育長により生徒に通知されます。

年齢制限による生徒/障害を持つ生徒のリリース - 年齢制限によるリリースとは、無料で公教育を受けられる年齢上限に達したことを意味します(満 21 歳の誕生日)。ウォーレン郡の公立学校では、生徒の満 21 歳の誕生日と同時に無料教育サービスが終了します。

補正評価:

学区の規則内で運用されている場合には、補正評価制度の詳細は各校の内部で検討、決定できる項目とみなされています。学区内の高等学校で取得された成績はすべて、進学のために 4 点制に変換されます。補正評価でも通常の評価でも、3.5 以上の G.P.A. を得た生徒は「優等生」とみなされます。2 名以上の生徒が、全科目で A を獲得し、同数の補正評価講座を受講していた場合には、これらの生徒は全員同等のランクを獲得したものとみなされます。

4420.16

作業ポートフォリオ規則:

各校長またはその指定者は、各児童生徒が「ライティング/作業ポートフォリオ」を作成するための計画を考案しなければなりません。これはすべての学年を対象にしています。ポートフォリオは、生徒が次のレベルや学年に進級するときに転送されます。校長または指定者は転送される生徒の作業フォルダーを管理します。ライティング/作業ポートフォリオの作成に際して、学校側は各レベルや学年でのライティング作品を完成させるための手順を作成しなければなりません。

#### **4440. クラス変更/履修の中止**

4440.01

6 または 7 時制限で編成されている高等学校の生徒は、学期開始後 2 週間(10 授業日)以内で、校長の承認があれば、履修科目を変更できます。

4440.02

6 または 7 時制限では 10 授業日を過ぎると、校長の承認がない場合、履修の中止や履修科目の変更はできません。クォーター開始後 10 授業日を過ぎてから科目の履修を中止した場合は、成績表に不可と記入されます。このクォーターの不可成績は、生徒の正式な成績証明書に記録され、生徒の G.P.A. 算出に用いられます。

#### **4450. 転校**

- 4450.01 学区内の学校間で生徒を転校させる場合は、教育長の承認を受け、生徒サービス部長の指示のもとで行います。(WCBE 09.111)

#### **4460. 成績表**

- 4460.01 出席状況、行動、学業に関する生徒の成績表は、教育長が承認した形式で教師によって作成されます。これらの成績表は生徒を通じてクォーターごとに保護者に送られます。保護者または後見人はこれに署名して、ただちに学校に返送します。ただし、学年度の最終成績表は保護者が保管します。

#### **4470. クラス分け**

- 4470.01 生徒をそれぞれの学年やクラスに配置し、評価、試験、進級、クラス分けを行うことは、教育長の指示のもと、校長と各教師の責任となります。

#### **4480. 不合格による運転許可取り消しの規則 (WCBE 09.4294)**

16 歳または 17 歳の生徒で、学力不足または出席日数不足とみなされた生徒は交通部に報告され、運転免許、運転許可、運転特権が取り消されます。

生徒が学力不足とみなされるのは、以下の条件によります。

- a. 1 日 7 制限の学校に出席する生徒で、1 学期につき 2 科目以上不合格となった生徒。
- b. 1 日 6 制限の学校に出席する生徒で、1 学期につき 2 科目以上不合格となった生徒。

生徒が出席不足とみなされるのは、以下の条件によります。

- a. 学校を中退した場合。
- b. 直前の学期の不当な欠席が累積 9 日となった場合。これには停学による欠席も含まれます。

運転許可または免許を申請する前に、生徒はガイダンスオフィスから、「運転免許証取得に関する学則準拠確認書」を入手する必要があります。この文書は、該当生徒が現在、良好な学力と出席状態を示していることを証明するものです。生徒の準拠状況が芳しくない場合には、出席要件と学業要件を満たした次の学期が終了するまで再申請できない場合があります。運転許可または運転免許を取得した後で学業または出席要件を準拠しなくなった生徒は、交通部に報告され、許可書または免許証が取り消されることとなります。

#### 4490. 学区 (WCBE 09.11)

- 4490.01 ウォーレン郡学区には、13 の小学校学区 (就学前～ 6 年生)、4 つの中学校学区 (7～8 年生)、4 つの高等学校学区 (9～12 年生)、4 つの高等学校、デイトリートメントセンター、ジャクソンアカデミー、GEO アカデミー、在宅指導施設、バーチャル高等学校、およびホームベースのプログラムが含まれます。小学校の学区には、Alvaton、Briarwood、Bristow、Cumberland Trace、Lost River、Natcher、North Warren、Oakland、Plano、Rich Pond、Richardsville、Rockfield、および Warren 小学校区があります。中学校の学区には、Drakes Creek Middle、Henry F. Moss Middle、South Warren Middle、および Warren East Middle があります。高等学校学区には、Greenwood High、South Warren High、Warren Central High、および Warren East High があります。Bowling Green Area 専門学校)は高等学校の学区の一部と見なされます。ペルウッド長老派教会児童施設)とリベンデル問題行動医療サービスでも教育サービスが提供されています。障害のある生徒は、個々の生徒のニーズに基づき、学区の学校の最適と思われるクラスに出席します。
- 4490.02 保護者や後見人から教育長に要請書が提出され、これが特別に承認されていない限り、学区内に居住している生徒は、自分の学区内の学校に通学しなければなりません。(学区はセントラル管理オフィスの地図に示されています。)学校施設を最大限に活用するため、教育委員会によって、これらの学区は時折変更されることがあります。
- 4490.03 生徒の家族がひとつの学区から別の学区に引っ越した場合(教育委員会からの費用支給やサービスを受けずに)、生徒はそれまで通学していた学校でその学年度を修了する許可を教育委員会に申請できます。翌学校年度からは、生徒が法的に居住する新しい学区の学校に通学するか、その学校に在学する期間中は毎年許可を得なければなりません。
- 4490.04 生徒は全員、地理的に区分される学区に指定され、自分の学区内の指定された学校に通学しなければなりません。身体的、心理的、教育的な理由により指定校を変更するには、以下の基準を満たすことが必要です。
- (1) 身体的な理由の場合は、希望の学校が、指定された学校よりも好ましい理由を述べた医師からの正式な推薦状が確認されます。
  - (2) 心理的または精神的理由の場合は、希望の学校が、指定された学校より心理的または精神的に望ましい理由を詳しく説明した、生徒の治療に実際にあたっている医師、精神科医、または臨床心理学者からの書見が確認されます。
  - (3) 生徒の具体的な教育ニーズが障害に基づくものである場合は、学区の専門スタッフが確認の上、生徒は ARC によって最初に指定された学校から別の学校に再指定されることがあります。

#### **4500. 費用**

- 4500.01 ウォーレン郡教育委員会は、必要に応じて、ウォーレン郡学区に通学する生徒が使用する学校備品、教材、器具などの購入費用を徴収する権利を有します。(WCBE 09.15)
- 4500.02 個人用の服装、楽器、教科書以外の教材で後日生徒の所有品となるものに課される費用には、教育長による事前の承認が必要です。(WCBE 09.15)
- 4500.03 以下の条件を満たす文化活動や校外学習、共同カリキュラム活動の入園料や交通手段のために費用が課されることがあります。
- a. 参加は自主的なもので、履修科目の必須条件を満たすために必要とされないこと。
  - b. 活動は、動物園、劇場、博覧会、州議事堂、テネシー州ナッシュビルのパルテノン神殿の見学など、教育委員会から承認されたものであること。
  - c. 活動は、教育長から条件に合ったものとして承認されていること。
  - d. プログラムや校外学習はスポーツ活動以外のものであること。
  - e. 料金が支払えない生徒に対して学校が費用を肩代わりする方法が手配されていること。(WCBE 09.15)
- 4500.04 教科書：  
高等学校の生徒は、基本となる教科書が必要な通年開講の科目では、教科書のレンタル料金を課されることがあります。無料給食あるいは割引給食を受ける基準を満たしている生徒には、教科書が無償で提供されることがあります。

#### **4510. 生徒の勧誘**

- 4510.01 生徒が学校管轄下にある場合は、教育長の承認なく、生徒の勧誘やインタビューなどを行うことはできません。
- 4510.02 学校管理者は、教育長の承認なく、外部の組織や個人に対し、生徒のリストを提供することはできません。
- 4510.03 生徒が参加する資金調達活動には、教育委員会による事前の承認が必要です。教育委員会が承認する資金調達活動はすべて、KRS158.290 に準拠しなければなりません。(WCBE 09.33)

#### 4520. スポーツ

- 4520.01 学校の代表選手となる生徒は全員、ケンタッキー州体育協会で規定されている平均成績を維持し、校長や教育委員会によって適用されるすべての地域的な規制に従う必要があります。(WCBE 09.31; 09.313)

#### 4530. 傷害保険

- 4530.01 選手の傷害保険が教育委員会によって提供されることが教育委員会から生徒の保護者や後見人に通知されていない限り、学校対抗の試合に参加する生徒は全員、保護者や後見人の医療保険に加入する必要があります。教育委員会は、医療保険で負担されない医療費に対しては一切責任を負いません。(教育委員会は生徒に対して傷害保険は提供しません)。(WCBE 09.23; 09.312)

- 4530.02 高等学校フットボール選手の保険要件：  
フットボールチームに参加する 10～12 年生は全員例外なく、学区が提供する高等学校フットボールプランまたは保護者の医療保険に加入しなければなりません。(これには 10～12 年生と共に練習や試合に移動する 7～9 年生も含まれます)。

チームに参加している 7～9 年生は、学区が提供している保険プランまたは保護者の医療保険に加入して活動に参加することができます。学区が提供する保険プランは、「学校活動のみに適用」または「24 時間すべてに適用」のいずれかです。ただし、「学校活動のみに適用」または「時間すべてに適用」に加入している選手は 10～12 年生と一緒に練習したり、試合に参加したりすることはできません。

保険に加入していない生徒は、練習に参加したり、他の選手とタックルなどで接触したりすることはできません。

高等学校フットボールプランは、入札制度を通じて教育委員会が選択した保険会社が、保険料を受け取った時点で有効となり、通常シーズンの最終試合またはプレイオフまで有効です。

#### 4540. 生徒の成績記録(家族教育権とプライバシー法およびチャイルド・ファインド)(WCBE 09.14)

家族教育権とプライバシー法(FERPA)は、保護者と 18 歳以上の生徒(「成人年齢の生徒」)に、生徒の成績記録に関する特定の権利を与えるものです。これらの権利は、すべての成績記録に公平に適用され、FERPA は障害を持つ生徒の記録と他の生徒の記録を区別しません。保護者と成人年齢の生徒に提供される権利には以下が含まれます。

4540.01

記録を調査する権利:

保護者または後見人は、学区が要請を受けてから 45 日以内に、生徒の成績記録の調査、検討を行うことができます。保護者または後見人または成人年齢の生徒は、調査を希望する成績記録を明記した要請書を校長に提出します。校長は成績記録の入手を手配し、保護者または成人年齢の生徒に、成績記録が調査できる日時と場所を通知します。

ウォーレン郡公立学区は、保護者に法的権限がないことを示す指令を裁判所から受けていない限り、保護者には、生徒の成績記録を検討、調査する権利があるものとみなします。

4540.02

情報の公開:

保護者または後見人は、生徒の成績記録に含まれている個人の身元がわかる情報を公開することに同意できます。この場合学区は、FERPA が保護者または後見人の同意のない情報公開を許可する限りにおいて、保護者または後見人の同意なくこのような情報を公開することができます。

保護者または後見人の同意なく情報を公開できるひとつの例外は、正当な教育的関心を持つ学校当局関係者への情報公開です。学校当局とは学区に雇用されている管理者、監督者、講師、サポートスタッフメンバー（医療/保健担当者も含む）、教育委員会のメンバー、学区が特別な仕事のために採用した個人や企業（弁護士、監査員、医療コンサルタント、セラピストなど）、または処罰委員会や苦情処理委員会に従事する保護者や生徒、他の学校当局関係者の補佐を務めている人を指します。

学校当局関係者は、職務上の理由で生徒の成績記録を検討する必要がある場合、正当な教育的関心を持つと見なされます。学区は、生徒が入学を希望している他の学校や他の学区の学校当局関係者に、生徒の成績記録を生徒の同意なく公開します。保護者は、要請すれば、転送された成績表の写しを入手できます。ディレクトリ情報は成績記録に含まれている情報で、公開されることが有害となったり、プライバシーの侵害になったりすることは通常見なされません。この情報は、報道機関、スポーツ組織、奨学金委員会、大学の入学審査委員会をはじめ、生徒の活動を支援するその他の公式団体に公開されます。「ディレクトリ情報」とは、生徒の氏名、住所、電話番号、生年月日と出生地、専攻科目、公認の生徒活動やスポーツ活動への参加、運動部の選手の場合は身長と体重、入学日、賞罰、最終学歴などを含みますが、それに限定されません。保護者、後見人、または現在通学中の成人年齢の生徒は、ディレクトリ情報の一部またはすべてが公表されないように要請することができます。この要請は、通知が配布されてから 30 日以内に、子供の学校の校長に書面で行います。要請書には、具体的にディレクトリ情報としてどの情報を非公開とするかを明記します。

校長は勤務校の生徒記録の責任者であり、生徒サービス部長は教育委員会事務所の記録責任者です。校長は勤務校の別の職員に、その仕事を委任することができます。

4540.03 記録の修正：  
保護者や後見人の要請に従って記録を修正することを学区が拒否した場合、学区は保護者や成人年齢の生徒に学区の決定を通知し、保護者や生徒には修正要請に関する審理を要求する権利があることを知らせます。審理手順に関する詳細は、審理に関する権利を通知する際に、保護者や成人年齢の生徒に提供されます。

4540.04 障害を持つ生徒の記録管理 (IDEA)：  
特殊教育サービスを受ける資格があると判定された生徒については、教育プログラムやサービスの提供が不要になった時点で保護者から要請があれば、教育に関する記録を廃棄することができます (例、サービス終了3年後)。ウォーレン郡公立学区は、記録が3年間保管され、教育プログラムやサービスの提供がすでに不要になっている場合は、保護者の要請がなくてもこれらの記録を廃棄します。記録に含まれるデータは後日ソーシャルセキュリティの受給に必要になることがあるため、保護者にはコピーを保管することが推奨されます。ウォーレン郡公立学区は期限を定めず、生徒名、住所、電話番号、成績評価、出席記録、配置されたクラス、修了学年、修了年度の記録を保管します。

特殊教育が必要と判断される児童や青少年には、聴覚障害、視覚障害、情緒/行動障害、難聴と盲目、健康障害、学習障害、精神障害、複合障害、言語障害、身体障害、自閉症、外傷性脳損傷を持つ生徒、およびこれらの障害により特別に配慮された指導やサービスが必要な生徒が含まれます。

4540.05 チャイルド・ファインド  
ウォーレン郡公立学区ではチャイルド・ファインドシステムを設定しています。これは、障害を持ち、特殊教育を必要とする新生児から21歳までの児童や青少年を発見するシステムです。これには、現在学校に通学していない児童や青少年、学校に通学していても必要な公教育における特殊教育を受けていない生徒を含みます。

ウォーレン郡公立学区では、保護者、親戚、公的機関や民間機関の職員、関心のある市民に対し、特殊教育や関連サービスを必要とする乳児、幼児、児童、青少年の発見の支援をお願いしています。ウォーレン郡内に居住し、障害を持つ可能性のある児童や青少年が特殊教育を必要としていることをご存知の方は、以下まで電話または郵便でお知らせください。ご来校いただいてもかまいません。

Director of Special Services  
Warren County Schools  
P.O. Box 51810  
303 Lovers Lane  
Bowling Green, Kentucky 42103  
(270) 781-5150

チャイルド・ファンドを通じて学区が収集する情報はすべて極秘扱いとされます。

4540.06 機密性 - 苦情の申し立て手順:  
保護者、後見人、成人年齢の生徒には、学区が FERPA 基準に違反していると思われる場合、米国教育省に苦情を申し立てる権利があります。FERPA を管理している事務所の名称と住所は以下の通りです。Family Policy, U.S. Department of Education, 400 Maryland Avenue SW, Washington, D.C., 20202-4605。

4540.07 翻訳:  
この冊子の他の言語の翻訳版を必要とする方をご存知の場合は、ウォーレン郡教育委員会の ESL コーディネーターまでご連絡ください。

学校で保護者面談が予定されており、関連情報について通訳、翻訳、またはその他の方法での支援が必要な場合は、学校の校長に連絡の上、手配をご依頼ください。

#### **4550. 差別**

4550.01 ウォーレン郡教育委員会は、教育機会や雇用機会をめぐり、人種、遺伝情報、婚姻状況、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、障害を理由に差別することを禁じています。

4550.02 差別に対する苦情申し立ての手順:  
a. 人種、婚姻状況、肌の色、国籍、年齢、宗教、性別、障害を理由に差別されたと感じる職員や生徒は、ウォーレン郡の教育長まで書面にて苦情を申し立てることができます。宛先は以下の通りです。Superintendent, Warren County Public School District, 303 Lovers Lane, Bowling Green, Kentucky 42103。書面による苦情申し立ては、苦情の内容に基づき、苦情申請者の署名月日をもとに有効とされます。

- b. 生徒または生徒を代弁する保護者は、違反と思われる行為を、通学する学校の校長、カウンセラー、または教師に報告できます。校長はこれに応じて、生徒に関連する差別行為を調査し、状況が非公式な形で解決されない場合は、書面による苦情を行うよう保護者に助言します。苦情に対する解決方法に異議がある場合は、教育長に書面で申し立てでき、10 授業日以内に返答が通知されます。その結果得られた解決方法にも納得できない場合は、教育委員会に申し立てできます。教育委員会では、次回予定されている定期会議でその件について審議し、会議の日付から 3 日以内に結論を書面により通知します。これが学区による最終結論となります。

教職員が関係する件については、教育長にただちに報告されます。このような状況では、手続きを進める前に、書面による正式な苦情申し立てが必要です。10 授業日以内に、教育長から書面で返答があり、その結論に対して異議がある場合は教育委員会に申し立てできます。教育委員会では次回予定されている定義会議でその件について審議し、会議の日付から 3 日以内に結論を書面で通知します。これが学区による最終結論となります。(WCBE 規則 09.42811; 03.162; 03.262)

#### 4560. ガイダンスサービス

各校では、クラスレベル、小グループレベル、および個人レベルでのガイダンス、カウンセリング、サポートサービスを提供しています。これらで扱われる題材には、キャリアプランニング、次段階の教育に関するオリエンテーションをはじめ、問題解決や他の生徒との関係、アルコールや薬物、意思決定スキルなどの内容が含まれます。さらに生徒は、様々な目的で生徒から意見を収集するための生徒アンケートに自主的に参加することができます。質問や懸念がある場合は、保護者は子供の学校のカウンセラーに連絡してください。

#### 4561.0 電子リソースの使用条件とガイドライン

##### パート 1 - 定義

電子リソースには、以下のタイプの教材が含まれますが、それに限定されません。

- a. コンピュータとその関連機器
- b. 電子メールやインターネットを含むコンピュータネットワークリソース
- c. ソフトウェア、CD-ROM、ビデオファイル、オーディオファイルなどの電子メディア

##### パート 2 - アクセス権とプライバシー

ウォーレン郡の公立学校は、学区のリソースが教育目的のみに利用されることを確実にするため、すべてのタイプの電子リソースに対し、そのアクセスを制限する権利を有します。ネットワーク管理者または学区のテクノロジーコーディネーターは、すべてのユーザーディレクトリに保存されている情報、ユーザー画面、電子メールにアクセスする権利を有します。機密情報をユーザーディレクトリに保管しても、絶対的なセキュリティは保証されません。進捗状況のチェックやセキュリティ上の理由で、ネットワーク管理ソフトウェアや監視ソフトウェアを使って、生徒や職員のモニターに無作為にアクセスすることがあります。

##### パート 3 - 使用に関する一般的な基準

ウォーレン郡テクノロジーコーディネーターにご請求ください。

## 4562. 食事に関する手続き

### 4562.1 食事料金の後払いについて

食事を受け取る列に並んでいるときに、食事の料金が手元になく、後払いをやむなくすることはできるだけ避けてください。ただし、料金を持参しなかった場合や失くした場合は許可されます。このサービスは、毎回後払いを繰り返す生徒にクレジットサービスを提供するものではありません。学校管理者と保護者の間に特別の同意がない限り、生徒は食事料金を 3 回だけ後払うことができます。ただし、それまでの未払い分が完済されていなければなりません。未払い額は長期休暇開始前、および学年度終了前に完済されなければなりません。

### 4562.2 702 学校給食との競合の禁止 - KAR 6:0090

この規則は、生徒が一日少なくとも一食は栄養のバランスのとれた食事をする機会を与えるために設けられています。

#### セクション 1.

- a. この規則は、学校朝食プログラムまたは全米学校昼食プログラムと競合して、生徒組織や保護者、学校職員の組織が食品の販売、スナックバー、自動販売機などを通じて学校キャンパスで、飲食物の販売や提供を行うことに関して設けられているものです。
- b. 学校朝食プログラムや全米学校昼食プログラムと競合して、学校キャンパスで飲食物を販売、提供することは、最後の時間帯の給食提供終了 30 分以上経過するまで禁止されています。

### 4563.0 小切手

学校に料金を支払ったり、生徒用の物品を購入したりする際には、個人用小切手を使用することができます。ただし、学校で小切手を現金に換金することはできません。小切手が未払いで戻ってきた場合は、電子的に再預金されるか、必要な場合はペーパー形式で再預金されます。この場合、州法で許可されている方法で、小切手を切った人に 25 ドルの手数料が課せられます。学区の小切手受け付けに関する規則に質問がある場合は、270-781-5150 までお電話ください。

#### 4564.0 生徒の写真および防犯カメラに関する規則

保護者により必要事項が記入されたオプトアウト・フォームが学校に永久的に提出・保管されていない限り、ウォーレン郡公立学校の各児童はケンタッキー州教育部、ウォーレン郡公立学区および通学する学校により、児童の写真またはビデオ画像を合法的な目的で使用する権限が与えられています。

生徒の画像および身元がわかる情報（フルネーム、学年、学校名）は、保護者から拒否フォームが提出されない限り、各種の教育関連刊行物、テレビ番組、ケンタッキー州教育部や地元の学校または校区のウェブサイトに掲載されることがあります。また、この承認により、これらの団体は、宣伝目的でその他の刊行物、報道機関、教育機関に児童の画像と身元がわかる情報を提出することができます。

保護者により生徒の身元がわかる情報や画像の報道機関への使用または配布が許可されない場合、新聞、テレビ、学区のウェブサイトや他の刊行物で特集された活動の達成または関与について生徒の身元は特定できなくなります。

保護者は、生徒が通う学校で生徒の「オプトアウト」カードを入手できます。職員が確認できるように、必要事項を記入し、学校に提出することが必要です。